

283

あじあ洲

中等地理教科書

外國地誌

例言

一 外國地誌はあじあ洲、おせあにあ洲、えうろっば洲、あふりか洲、あめりか洲の五部に分ちて記述し、其のあじあ、おせあにあ洲、あふりか洲を以て上巻とし、其のえうろっば、あふりか、あめりかの三大洲を以て下巻とせり

一 外國地誌を編纂するに當りて參考に供せし主要なる書籍は左の如し

西伯利地誌

支那地誌 蒙古部

參謀本部編纂

同前

- 滿洲地誌 同前
- 東亞各港誌 同前
- 清國地誌 岸田吟香著
- 支那通覽 山中峰雄著
- 支那帝國地誌 安東不二雄編纂
- 清國通商總覽 日清貿易研究所編纂
- 支那彙報 東邦協會編纂
- 朝鮮彙報 同前
- 朝鮮論 大庭寬一著
- 朝鮮通商事情 川原一太郎著
- 朝鮮八域誌 青華山人原著
- 朝鮮地理誌 太田才次郎編

- 南洋探檢實記 鈴木經勳著
- 輿地誌略 內田正雄著
- 安南史 引田利章譯述
- 報告書類 各官廳編纂
- Géographie universelle, E. Reclus.
- La terre à vol d'oiseau, O. Reclus.
- Geographie générale, P. Foncin.
- Cours de géographie, E. Cortambert.
- Manuel de géographie, Alexis.
- Revue de géographie, L. Drapeyron.
- A new geography comparative, J. M. D. Meiklejohn.
- Stateman's year book (1896)

Almanach de gotha (1896)

Atlas de géographie moderne,

The world wide atlas,

The graphic atlas,

F. Schrader.

Johnston.

J. G. Bartholomew.

中等地理教科書

外國地誌上卷目次

あじあ洲

總論	一
朝鮮國	三七
清國	六三
印度支那	一五
マレー群嶋	三二
印度	四八
パミル高原	七三
イラン高原	七三

○れせあにあ洲

アマートルコ	一八〇
アラビア	一八八
アウアロシヤ	一九一
アウストラリア	一八三
タスマニア	一八
マレシア	二五
メラネシア	三〇
新ギーンランド	三六
ミクロネシア	四〇
ポリネシア	四三

中等地理教科書

外國地誌

あじあ洲目次

總論	一
自然之部	一
政治之部	二七
朝鮮國	二七
自然之部	二七
政治之部	四三
清國	六三
自然之部	六三

政治之部

七八

香港

一一四

澳門

一一四

印度支那

一一五

フランス領

一一二

暹羅國

一一六

イギリス領

一一九

マレー群島

一二二

ニスペニア領

一三六

オランダ領

一四〇

イギリス領

一四八

印度

一四八

其一 印度半島

一四九

獨立部

一六一

イギリス領

一六三

ポルトガル領

一七〇

フランス領

一七〇

其二 セイロン島

一七一

パミル高原

一七三

イラン高原

一七三

バルシスタン

一七五

アフガニスタン

一七六

ペルシア國

一七七

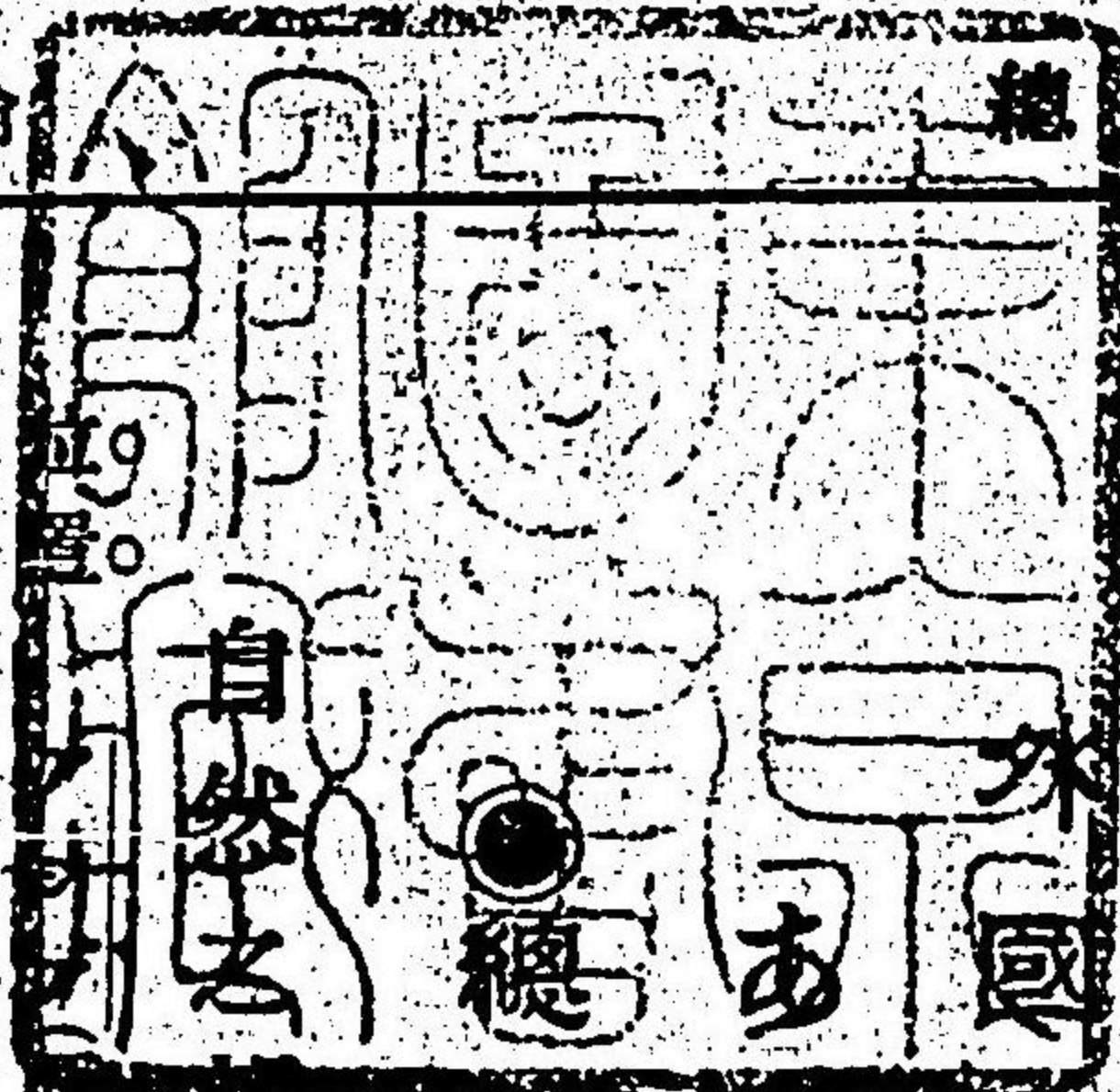
アシアトルコ

一八〇

シベリア	一八七
アラビア	一八八
独立部
トルコ領	一九一
イギリス領	一九一
アジアロシア	一九一
カウカシア	一九二
中央アフリカ	一九六
シベリア	二〇〇

中等地理教科書

野口保興著



外國地誌
トア洲

論

自然史部

が五大洲中の最、大なるものなり、茲に其の四極點の位置を經緯度に依りて指示すれば左の如し

極南 ハリール島の南端

南緯 凡そ九度

極北

ナエリウスキヌ岬

北緯 凡七十八度二十五分

極西

小アマアの西端

東經 凡二十六度四分

極東

東岬

西經 凡百七十三度

從來マレンシアの一部としてオセアニア洲に編入せられたるヒリピナ群島、ボルネオ島、ソンダ諸島を本洲の所屬となしたるを以て極南の地は南緯凡九度と成りたるも、此等の島嶼を除けばマラッカ半島のロマニア岬は極南の地と成りて北緯凡一度三十五分に當れり

境域。本洲は北に北氷洋、東に太平洋、南に印度洋を扣へ、西は山脈、河流、海灣、海峡等を隔ててエウロパ洲に接するが故に境界は概して天然自然の地形に基づくが如くに見ゆれども、亦人爲的に出づるもの少なしとせず、本洲とエウロパ洲との境界にあるカウカス山脈、ウラル山脈は以て地理學上天然の境界と稱するに足らず、ボスホルヌ海峡、マルマラ

海、マルマラ海峡等はアジア、エウロパ二洲の別を顯明ならしむる能はず、而して本洲とアフリカ洲との境界は稍判然たるの感あるも、東界に於ける沿岸の島嶼は花彩、鏈の形狀を呈して本洲をして、北はアメリカ洲に連接せしめ、南はオセアニア洲に繼續せしめ、以て此等の三大洲の間に區劃の有無を疑はしむ

廣袤。本洲は五大洲中にて廣袤の最、大なるものなるが南北は稍短くして七千軒を有し、東北は長くして一萬五百軒以上に達せり

面積。沿岸島嶼の南部に於けるヒリピナ群島、ボルネオ島、ソンダ諸島を本洲に附屬せしむると否らざるとに依りて本洲の地積は或は四千四百五十萬方軒と成り或は減じて四千二百五十萬方軒と成る、然れども此の地積はアメリカ洲を越ゆるのみならず、殆どエウロパ、アフリカ、オセアニアの三洲を合せたるものに等し

海灣。本洲は三大洋に面するを以て之に附屬する海灣も亦少なからず、今左に一表を作りて本洲附屬の海灣に就きて稍著しきものを列舉せり

北氷洋

ベーリン海 アナザール灣 オホーツク海(北海)

太平洋

日本海 ペートル大帝灣 元山灣 黄海 遼東灣 直隸灣 北支那海(西海) 南支那海 東京灣 暹羅灣

印度洋

ベンガル灣 オマーン海 アナアアル灣 カンベイ灣
オマーン灣 ペルシア灣 紅海 アデン灣 アマバ灣
シラエス灣

地中海

エーヴォ海 マルマラ海 黒海

海峽。北より東南西に往くの順に依りて海峽の主なるものを列舉

すれば次の如し

ベーリン海峽 樺太海峽 朝鮮海峽 臺灣海峽 マラッカ海峽

バルク海峽 オルムス海峽 バプエルマンデブ海峽 ダルダニ

ル海峽 ホスホルス海峽

嶋嶼。本洲に屬する嶋嶼は其の數少なからざるも配置は東方に偏して主要なるものは概し東部の沿海にあり又嶋嶼部の地積は全州の十六分の一に當れり

北部 リアコフ諸島 アンガッ諸島 ウランゲル島

提督諸島 千島列島 日本群島樺太島 九州島 北州島 本州島 四國島 等

東部 沖繩列島 臺灣島 ヒリピナ群島ルソン島 ミンダナオ島 ボルネオ

島 大ソンダ諸島スマトラ島 シンバレー島 バリ島

南部 アンダマン列島 ニコバル列島 セイラン島

ラウチア諸島 マルチン諸島

西部 シーブルス島 ロドス島 スボラド諸島

半島。本洲に属する諸半島の地積は全洲の五分の一に當れり

北部 ラルマル半島 タイムイル半島

東部 カムナツカ半島 朝鮮半島 遼東半島 山東半島 廣

東半島

南部 マラッカ半島 デカン半島 グーヴェラッド半島

西部 アラビア半島 シナイ半島 小アジア半島

地角。主要なるものは左の如し

北部 スクワトツ岬 ナリウスキヌ岬

東部 東岬 ロバツカ岬

南部 カンボヂア岬 ロマニア岬 ボイントドガール岬 コ

西部 モリシ岬 ラズニルバット岬

地。最著しきものはマラツカ半島のクライ地峽及本洲とアフリ

カ洲との間にあるシエス地峽なりとす

海岸。北部に於ける本大陸の海岸は甚だ簡單にして海灣の突入及

陸地の突出共に至りて少なく、港灣の存するあるも多くは河口たるに

過ぎず、地角は無きにしもあらずと雖、其の盡頭の尖鋭なるもの少なし、

東部に於ては北方のペーリン海峡より南方の暹羅灣に至るまでの内

海は半島又は島嶼の爲に多少區劃せらるるも相互に連接せり、此等の

海の中に就きて黄海の直隸、遼東の二灣に於ける如く、南支那海の東京

灣に於ける如く、大陸に接近するの地に於て更に港灣を形成するあり、

南部に於ける海岸は顯著なる半島又は海灣を形成し、其の東方の海灣

は開洞廣大なるも西方に於けるものは狹長にして殆ど閉塞せらるるが如き形状を有せり、西部の海岸は最、彎曲に富める處なるが狹小なる半嶋多くして、海灣は深く陸地に侵入せり

海岸線の延長は五万八千料なれば七百方杆に付海岸線一杆の割合なり而して此の割合はエロッパ洲に關するものは二百九十方杆に付一杆にしてアフリカ洲に關するものは一千四百二十方杆に付一杆なり
山岳 本洲の山岳は全世界中最、顯著にして山脈も亦甚、錯綜せり、其の方向は東西に走行するもの多數なるが如くに見ゆれども、南北の趨勢を呈するものも亦少なしとせず

北部の低地が最、南進せる處は印度の平野が最、北進せるの地にして、此の兩低地の間に於ける高地は其の幅僅に數百杆にしてヒンヅーク
ー山脈、バミール高原は實に世界の屋棟たり而して此の處より山脈



亞細亞大陸圖

は東西に走行して本洲を東西の二部に分ちたり、其の東に越くもの
 一派は崑崙、カタコルン、ヒマラヤの諸山脈にして西藏高原、翰海高原、等
 を挟み、印度支那半島に於ては數條の並行山脈と成り、支那に入りては
 南嶺、北嶺、陰山、興安の諸山脈と成る、他の一派はパミール高地より出で
 て天山、アルタイ、サイヤンスク、ヤプロノイ、スタノポイの諸山脈と成る、
 而して其の西に走る一派はイラン、アルメニア、カウカス、小アジア等の
 高地を抱き、別脈はシリア及アラビアの山脈と成れり

アルタイ山脈より出づる一支脈はキルギズの丘陵と成りて遙にウ
 アル山脈に達し又印度半島にはヒンドヒヤ、東西のガト山脈あるも孤
 立するが如し

東部の沿岸島嶼を南北に貫く山脈は火山質にして南は大ソング諸
 島のツバよりヒリピナ群島を経て我が臺灣に入り日本群島を過ぎ

りてカムナナカ半島に越けり此の火山脈は太平洋の周邊を圍繞する
火山線の一部なりと云ふ、今茲に一表を作りて本洲山脈の概略を知らしめんとす但し括弧内の
の数字は米実数なりとす

ヒンツークトシ山脈	西部	ヤプロノイ山脈	スゴソポイ山脈
パミール高原	西部	エルプールの山脈	タマンド(五四六五)
天山脈	西部	アルメニア山脈	アララット(五一五七)
支那山脈	西部	カウカス山脈	エルプルス(五六四七)
南嶺北嶺	西部	小アジア高原	タウリウス山脈
陰山	西部	シリア山脈	リモン(三〇〇〇)アンチオキ(二七五〇)
興安山脈	西部	アラビア諸山	ヘツアス(一八〇〇)アテン(二四〇〇) オマン(三〇〇〇)
雲嶺	東部	ヒマライヤ山脈	カンチンシンガ(八四八〇) ガウリサンカル(八八四〇)
翰海高地	東部	崑崙山脈	
支那山脈	東部	西藏高原	カラコルン山脈
天山脈	東部		ダブサンク(八六一五)

○**河流** 本洲の水脈に關する分水線は唯に顯明を缺々のみならず又
自然に反するが如し、江河の多くは山間山麓を洗ひて低地を求むるの
順路に依らず、山脈を縦横に切斷して進行流下せり、蓋此等の河流は源
を内部の臺地に發するを以て其の外縁に當る山脈を横斷するに非ざ
れば水を外海に注ぐ能はざるに依るならん

本洲は其の境域内に降下する雨水の配流に對し二大中心を呈供せり、其の一はヒマラヤ山脈及西藏高原にして少なくとも黄河揚子江、眉公河、サルウエン、イラウアサイ、ブラマプロ、ガンジス、インダスの八大河の水源たり、其の二はアルタイ地方にして黒龍江、レナ、イニシイ、オプ等の巨流を發せり、此等の二大中心の外尙天山々脈、アルメニア山彙等の小中心あり

本洲の河流の中には水を太洋若しくは其の他の外海に注入せざるもの少なからずして、或は沼湖に水を注ぐあり或は砂礫の中に流失するあり

本洲の河流に就きて特に奇とすべきは二水脈が一對に流下して所謂姉妹流を爲すにあり、水源を相隣接するの地に發し中流に至りては多少離隔するも下流は再相接近するか若しくは相合して海に投ずる

にあり、例へばオプとイニシイ、黄河と揚子江、ガンジスとブラマプロ、インダスとサトレジ、アマダリアとシルダリア、ナグリヌとウーフラテス等の如し

本洲はアフリカ洲の如く一大土塊を爲さざるが故に高地と低地との配置も一様ならずして數箇の別世界を形成せり、従て江河も速に山地高地を降下して廣漠たる平野に出で之を貫流して數千杆の地を潤したるの後海に入るもの少なからず、されば本洲の巨流は概して中流以下に於て通舟の利便を與ふるものなり

河口に廣大なる河灣を有するオプ並にイニシイの二流を除けば、自餘の江河は概して其の河口に於て三角洲を形成せり、而して三角洲の中にて或は海中に突出するあり或は灣底を填充するに止るあり、今左に本洲の河流に就きて主要なるものを列舉せり

本 流 水 源 河 口 河 長 合 流

北氷洋斜面

オホ アルタイ山脈 オズ海 四二三〇 イルチン

マシカ アンガラ イニニセイ 三音諾爾山脈 メニニセイ海 四七五〇 砂嶺 ツンガメカ

レナ マイカル山脈 三角洲 四〇四〇 アルメン 井リウイ

太平洋斜面

黒龍江 額爾古納河 後バйка 喀山 ニコライエ 四三八〇 松花江

黄河 崑崙山(北面) 直隸海 四一九二 洛河

楊子江(金沙江、大江、長江) 崑崙山(南面) 揚子江口海 五〇八二 岷江 嘉陵江 漢江

珠江 雲南地方 廣東海 北江 東江 西江

眉公河(瀾滄江) 雲南 南支那海 四三四〇

湄南河 盤谷海 メコン

印度洋斜面

サルウエン 西藏高原 アルタメ 一七八〇

イラウ イラウ アルタメ ?

ブラマ ブラマ ベンガラ海 二五三三

ガン ガン ベンガラ海 二七〇八 シエム

ゴ ゴ ベンガラ海 一四五〇

印度河 ヒマラヤ山脈 オマン海 三一九〇 サイレ

シフト エルアラ アラ チクリス ウーフラテス アララツト山 ヘルシア海 一八五五

地中海(大西洋斜面)

キシル エルマ エルズルン地方 黒海

凹窪地

ツ ウラル山脈 カス 二三八〇

アマダリア(オクシダス) ヒンズリック山脈 アラル海 一五二〇
シルダリア(ヤクサルダス) 天山山脈 アラル海 二〇八〇

閉塞地

塔里木河

カラコルン山脈 羅布湖

ヘルメンド

ヒンズリック山脈 ハムサン沼

シャルマン

リパン山脈 死海

沼湖。本洲の沼湖は著大なるものに乏しからずして中には海といふ名稱を附するの妥當なるあり然れども多くは閉塞地若しくは凹窪地に海水の滯溜せしに外ならざれば水底の深きものは甚少なしとす。特に羅布湖ハムン沼の如き乾涸濕潤常なくして廣袤の一定せざる沼地なり又バイカル湖の如き山間の湖水にして重厚なる水層を湛へるものも亦少なからざれども廣袤は甚著しからざるが如し

今茲に沼湖に就きて稍著名なるものを列舉せんとす。カスピ海即裏海は最大湖にして面積は凡そ四十万方杆を有せり而して其の水面は黒海に比するに二十六米突低下せり之に次ぐものはアラル海にして面積は凡そ六万方杆に過ぎざれども海面より高さこと四十八米突の處にありバイカル湖は山間にありてサレンガ河を受けアングラ河と成りてイニシセイ河に注ぐものなるが面積は凡そ三万五千方杆に達せりバルカシ湖はイリシ河の水を受くるも他の地に水を流送せず面積は凡そ二万方杆ありて海面より凡そ二百七十五米突の處にあり此の外尙稍著しき沼湖あるを以て次に掲ぐることせり但し括弧内の數は海面上の高さを表示する米突數なり

イシクイ(一五五四) コンゴル 羅布 青海(三四一六) テンシリ
ル(四七〇〇) ヴアルナ 鄱陽 洞庭 トンレサップ ハムサン沼 ウー

ルミア(二二八九) パン(二六二五) 死海(海面下三九四)

地勢。本洲は高嶺秀嶺に富むを以て全世界に冠たると同時に高地と低地との配置に就きて一種特別の情態を呈供せり

アフリカ及オーストラリアは共に周圍に山脈を纏ひ中央に低處を包む一塊の臺地なり之に反しエウロパ洲に於ては山地は半島狀を呈し凹處は海水の浸す所と成り平野臺地の如きは其の廣袤甚大ならず然るにアジア洲の地貌を観るに相連續せる數箇の高原より成りて其の主要なるものに至りては其の廣袤敢て南大陸に譲らざるが如し小アジアの三面とイランの南面とを除けば其の他の高原は直接に海洋に瀕することなし廣漠たる平野は高原の周りを圍繞するか或は其の間に侵入せり

アジア洲の地勢の奇異なるは土地の重厚なると高地低地の配置と

に止まらずして其の東面に花彩鏈の形狀を有する沿岸島嶼の存するあるにあり此等の島嶼は其の原火山の迸出に係り大陸と大洋との間に於て水底の淺き數多の内海を包圍せり
本洲に此等特殊の情態あるは本洲をして風俗を同ヒラせざる數箇の別世界の集合地たらしめたる所以なりメソポタミア印度支那の三世界相互の關係の粗なりしは實に本洲がエウロッパ、アフリカ等の他洲に對すると一般なりしなり

次に山地、高地、低地、窪地等の主要なるものを列舉せん

山地はヒンヅークシヤ、カラコルン、ヒマラヤ、崑崙嶺の諸山脈を始めとし、翰海、西藏、バミールの高臺地より西はカウカス、アルメニアの山脈、東は沿海シベリア并にカムチアカの高處に至るまで概三千米突以上に達せり

高地は本洲の主要なる部分にして其の面積は甚大なりとす、東には戈壁沙漠、タシラマカン沙漠、高地支那あり、西にはイラン、アルメニア、小アジア、アラビア等の高地あり、南端にはデカンの高地あり、
 低地は北部のシベリアに廣漠たる平地あれども多くは寒冷の地に屬し、又オシクン、カラクシンの如き草原を含有せり、之れに反し北支那平地、揚子江沿岸平地、印度支那平野、印度平野、メソポタミア平野は地味肥沃にして大に物産に富めり、
 窪地はカスピ海、アラル海并に死海等の沿岸の地なりとす、
 氣候。本洲は概して溫和帶に屬し、南の方熱帶にあるもの并に北方寒帶にあるものは實に一小部分に過ぎず、大陸の極南の地たるロマニア岬と雖、赤道に達することなく、唯、ソマ諸島の中央に於て此の線の通過するあるのみ、然れども本洲は其の陸地が一大塊を爲すと高

低三地の配置とに基づきて氣候は大陸的なり、即ち寒暑の差の激烈なるを免るる能はず

夏季に於ては最低氣壓はイラン、西藏の兩高原地方にあり、從てアジアの北部及中部の最多風の方向は北東又は北にして西アジアに就ては南西、印度并に南支那に就きては南又は南東なり、而して此等の風向中にて南東若しくは南の風は濕風にして所謂季候風なるが、其の他の風は乾風なりとす

冬季にありては最高氣壓は東シベリアにあるを以て全アジアをして東北、北等の風を受けしむ、而して此等の風は何れも乾燥にして大陸的なり

南東の地方并に小アジアの沿岸地方を除けばアジアは概して海洋の溫和なる影響を蒙らざるが如し、本洲の気温の變化の激烈なるは實

に他に其の比を見ず、ベルシア海の沿岸の如き、炎熱の酷烈なる點より言は、實に稀有の地なりと云ふべきほどなれども、其の位置は回歸線の北にあり、北半球の寒極の一は北極圏下に於けるシベリアにありて、ベルン、ホイヤンスクに於ける寒暑の差は六十五度に達し、(一月は零下七度、六月は十度)又最低最高兩温度の差は八十五度に及ぶと云ふ、然るに、ヨーロッパのシベリヤにある同緯度の海岸に於ては寒暑の差の平均は十五乃至二十なり、北京とナポリとは同緯度にあるも寒暑の差の激烈なるに至りては素より同日の比にあらざり又シベリアの或土地に於ては一日中の寒暑の差も亦甚懸隔せるもの如し

西は地中海、紅海より東は殆太平洋に達し、南はヒマラヤ山脈に界せらるる北地に於ては、空氣は乾燥に失し、降雨は稀なり、又降雨時期南西は冬季、北東は夏季の存するあるも至て短かく、冬季の嚴寒に際するも

永世雪線は五千五百米突を降る能はず、此の一帶の地は草原若しくは沙漠の地なり、地味は礫角にして牧畜に適するのみにて住人は甚稀薄なり、耕作は絶對的に行ふを得ざるの地なりと云ふに非ざるも住民の非常なる勞力に依るに非ざれば効果を奏する能はず、人為去り人力退かば一朝にして國土は變じて沙漠と成り、田野は化して沼澤と成るなり、而して此等の事實は西アソアの歴史に徴して明なる所なり

然れども眼を轉じて南東アソアの季候風地方の情況を觀よ、何其情態の相反するの甚しきや、此の地方は降雨甚多く、其の量平均四米突にて中には十二乃至十五米突に達する處あり、斯の如く多量の降雨あるのみならず、氣温は炎熱に過ぐるの嫌あるも激變の憂少なくして、印度、シンド、諸島より南東支那、并に日本の南部に至るまでの地に熱帶的植物の繁茂を來たせり、且又南東地方に大河巨流の多きは亦此の降雨の

として綿草藍草に至るまで凡の耕作に適せり又駱駝は此の地方の好力役動物なり

季候風アツアは地味佳良にして温度湿度の適順なる土地なれば農業に適するは勿論にして特に米を産すること夥しく大に人類の繁殖を補助したるが如し其の他の穀類は印度の臺地に豊熟し阿片はガンズ河畔に生じ茶葉桑葉は清國日本に産し丁子肉桂胡椒等の香料はマラカ半島ソマ諸島の名産なり又蕪藪たる藤原并に人跡の到らざる森林の中に象虎等の猛獸奇獸の棲息するあり
是に由て之を觀れば本洲は温度湿度を始とし動物植物の分布に至るまで均一の配賦を受けたるの地に非ず季候風の恩惠を蒙る地方の如きは全世界中屈指の豊土饒地にして草木繁茂し人口は亦極めて稠密なり之に反して北部の寒冷の地西部の礫角の土には物産少なく住

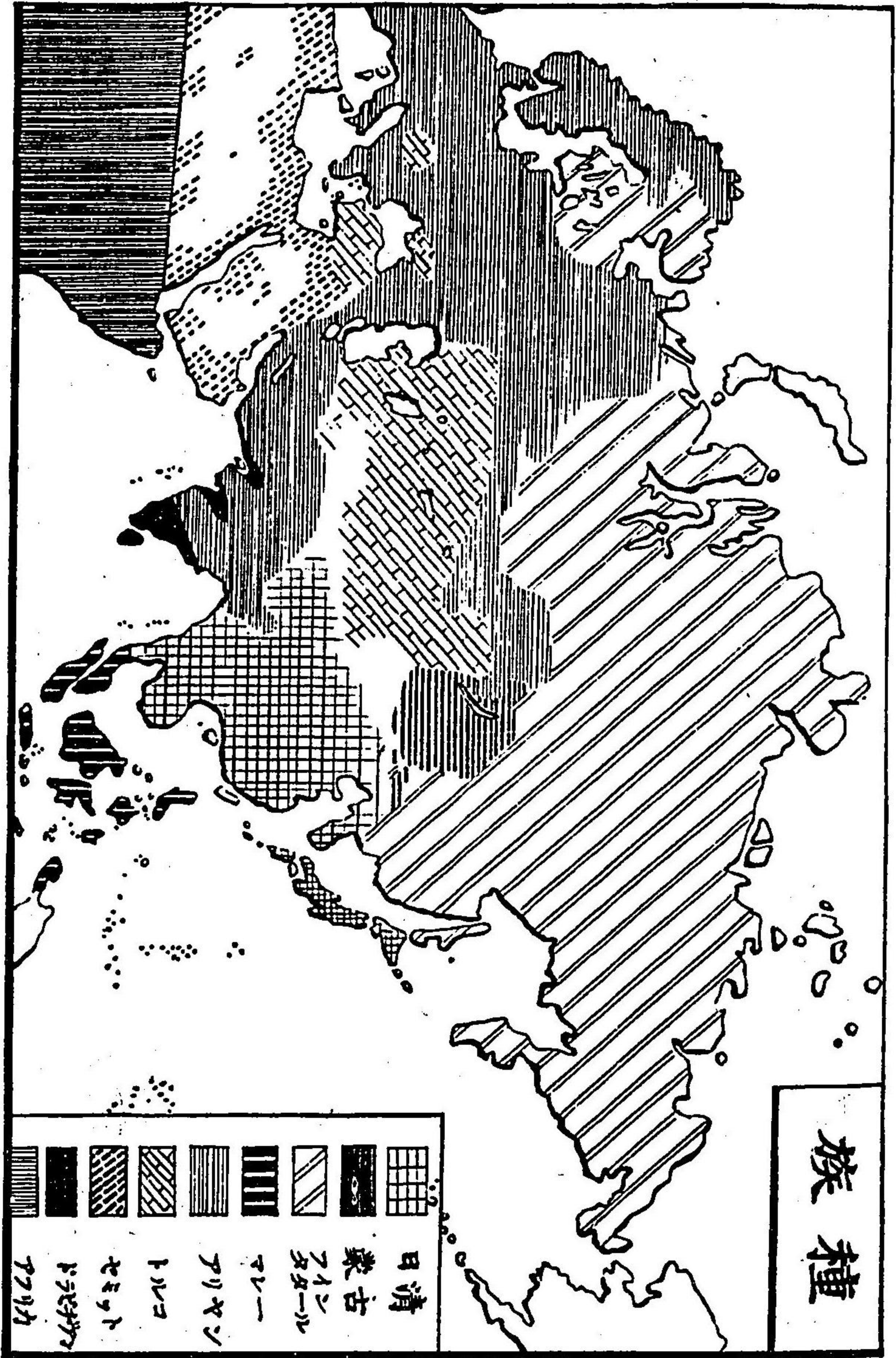
民も亦至りて稀薄なり要するに本洲は偏重偏輕の最著しき國土にして其の全部が進歩したる人種の棲息地として均しく開明の恩澤に浴するの日は蓋得難かるべし

鐵物はシベリアに金銀白金等を産し金剛石其の他の寶石は印度に生じ石炭は日本印度支那等に多し

政治之部

人口。本洲の人口は八億五千萬に達して世界の人口の半以上に相當するも粗密の點に於ては本洲(二九のヨーロッパ三五八)に及ばざること遠しとす然れども人口の配布は山脈河流氣候天産等の情態に由るものなれば場處に依りて人口の粗密に非常の懸隔差異を生じたり季候風諸國の人口はアツア全洲の人口の百分の八十五に當りて日本支那

并に印度は全地球中人口の最稠密なるの地方とす、一平方杆に付きて
 の人口の多きこと實にエウロパ洲も及ばざる所なり、從て此の地方に於
 ける大都會は住人の夥しきこと實に他に其の比を觀ざる所にして東
 京(二五〇、〇〇〇)、廣東(二五〇、〇〇〇)、北京(一〇〇、〇〇〇)、天津(一〇〇、〇〇〇)、ボン
 ベイ(八〇、〇〇〇)、カルムック(七〇、〇〇〇)等は其の一斑を表するに足れり、
 然れども之に反して他の部は人口非常に稀薄にして一平方杆に付き
 て三人に過ぎざる所あり、而して十萬以上の人口を有する都會は五六
 ヶ所あるのみ、即ちケネヂス(三〇、〇〇〇)、マヘラン(二〇、〇〇〇)、メミルナ(一八、五〇
 〇)、ホマス(一五、〇〇〇)、マシケン(一二、五〇〇)等なり、
 人種 高原は地勢に對して東西アジアの境界を爲すのみ
 ならず、人類の繁殖上より觀るも亦蒙古人種とアリヤン人種との境界
 たりしなり、然れども人類の發達は斯る天然の分界線を打破りて互に



侵入し、蒙古人種の西アシア、エウロツパに往住するあり、アリヤン人種の東アシアに來住するありて、世が開明に趣くに從ひ何れの土地も各種民族の雜居する處に成るものゝ如し

蒙古人種(五億七千五百萬)は太平洋沿岸の全部を占むるも、其の境域は西の方に趣くに從ひて狹窄し以て本人種の居住區域を二部に分割せり、其の北部はトングス、ヤクト、サモイェ、オスタク、フインの數種族を包括し、其南部并に中部にあるものは朝鮮人、滿洲人、支那人、安南人、ビルマニア人、西藏人、トルコメニア、キルギズ等の種族に分れ、本邦人の如きも此の派に屬するものゝ如し而して蒙古人種の一部は裏海の後方なるカウカシア又は小アシアの地に於て他の人種と共に雜住せり

インド—エウロツパ人種即ちアリヤン人種は本洲の南部に多くして豊饒

世界十大嶋地積比較圖

方料	十 万	二十 万	三十 万	四十 万	五十 万	六十 万	七十 万
1	パプアシア						785362
2	ボルネオ						740840
3	マダガスカル						591964
4	スマトラ						440000
5	本州嶋						226579
6	大ブリタニア						150697
7	ジャバ						131523
8	ゼレベス						128473
9	クバ						113833
10	ルソン						100000

なる印度の平野よりイラン高原、アルメニア臺地に至るまでの地を占むるが其の主要部はヨーロッパ洲にあり而して印度に居住するものは他の人種の混化を受けたるが爲め極めて不純粹なる種族を爲せるが其の主要なるはヒンツ、ラップ、マイト等なりとす又スラフ人即ちロシア人(五百万)はシベリアの中部并に中央アジアに侵入して狭長なる一帯の地を占め二派の蒙古人種の間棲居し、ギリシヤ人、ルパン人は小アジアにありて其の數も亦少なからず此の種に屬する住人の總數は二億に達せり

セミット人種はアラビヤ人、シテア人を以て代表さるるものなるがシリヤ、アラビヤ并にユーフラテスの流域に棲居せり

黒色のドラビチヤ人は印度最舊の住民なるが他の種族の來住ありし爲め今は僅に半島の南部及びセイロン島に生存するのみにて其の數は

四千萬に過ぎざるが如し

マラッカ人種は其の數二千万内外なるべきが大ソンダ島并にマラッカ半島の一部に棲息せり

宗。教。本洲が優等なる宗教の淵源たるにも拘らず、當今に於ける宗教の勢力は甚盛ならざるが如し、今茲に其の概況を記さんとす

印度の住民(一億九千萬)の大多數は古來ブラマ教を信仰し、アシアの東部並に中部の蒙古人種(五億)は概して佛教を奉せり

ソデア教徒(五十萬)耶蘇教徒(五百萬)は小アシア、アルメニア、シベリア、シリア、印度、印度支那、支那等の諸國に散居せり

回回教徒(一億三千万)はアシアの西部并に中央部を占領し尙漸次に印度地方並に支那の北部に侵入して其の勢を逞しうせんとせり、其の他、マラッカ半島、ソンダ諸島に於けるも亦本教徒の彌漫せるあり

西部	印 度		部 島
アフガニスタン	二七四〇〇〇	五〇,〇〇〇〇	カフカ
ペルシア	一五八,〇〇〇	七六五,五〇〇	チン
アフアトル	一八九,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	スミルナ
アフガニスタン	二七四〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	カフカ
独立部	二六〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	カトマンド
ホルトガル領	六二二五	四八二,四六七	ゴア
セイラン	六四,五二六	三〇三,〇〇〇	コロンボ
フランス領	五二六	二七三,〇〇〇	ポロニヤ
イギリス領	五二二,一八六六	二,九四四,七五〇	六五
インド	五二四,七三四〇	二,九一四,四五〇〇	六〇 カルムッタ
オランダ領	一三〇,〇〇〇	二八〇,〇〇〇	二二 マタラ

東部	南 支 度 印		
朝鮮國	二二八,八五〇	七五〇,〇〇〇	三四 京城
清國	一一〇七,〇〇〇	三,五七三,五〇〇	三五 北京
香港	七九	三三,一六三	二六 香港
フランス領	四八,九五〇	一八六,九一〇	三八 河内
交趾支那	五九五〇	一八七,六八九	三三 柴棍
東京	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇 河内
安南	一三三,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	二六 順化
東埔寨	一〇,〇〇〇	八二,四七五	八 南旺
暹羅國	五二,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	九六 盤谷
海峽殖民地	九,〇〇〇	二二四,二〇〇	二四 シンガポール
エスパニア領	一九六,二八二	七〇〇,〇〇〇	二四 マニラ
イギリス領	一一〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五

北極	シベリア	中央アジア	カウカシア	アジア全部
一六八七六九五四	一一五二八四八九	三五〇四九〇八	四六三三五	四四五〇〇〇〇
一一八八四〇〇〇〇	四七八〇〇〇〇	六二二〇〇〇〇	七九五〇〇〇〇	八五〇〇〇〇〇〇
一一二	〇一	一七	一七	一九
イルクーツク	オアシア	ハイロンカ	チンリス	

朝鮮

自然之部

境。朝鮮國はアジア洲の東部に於ける狭長なる半島國なり、其の極南の地は濟州島の毛瑟浦にして北緯三十三度四十六分に當り、其の極北の地は豆滿江沿岸の永達近傍にして北緯四十三度二分に當れり、極西は小乳羈角の東經百二十五度五分にして極東は豆滿江の百三十三度五十八分なり、北は長白山脈、豆滿江を以てアジア、ロシアに界し、鴨綠江を挟みて清國に接し、東は日本海、南は朝鮮海峡を隔て、日本國と相對し、西は黃海に望みて清國に隣せり、廣袤は甚大ならざるも長は凡そ二百三十里ありて幅は凡そ六十里以内なり、面積は二十一萬八千六百五十方軒即ち一萬三千四百方里なれば殆ど我が帝國の半に當れり。

海部。港灣の主要なるものを舉ぐれば日本海に慶興灣、永興灣、元山津、興海灣あり、朝鮮海峽に釜山浦、馬山浦、河東灣あり、黃海に新倉灣、舒川灣、淺水灣、南陽灣、濟物浦、大同江口、鴨綠江口あり。

陸部。東海岸即ち日本海に面する部分は崎嶇凹凸少なし、西海岸は之に反して彎曲多く且、島嶼の之を環繞するあり、半嶋として掲ぐべきものは泰安半嶋のみにて、崎岬には赤嶋岬、蒙白串、牧東應岬、外冬串、瑟琶岬、登山串、小乳礁角、扶郎串あり、嶋嶼には東に鹿島あり、南に絶影島、巨濟島、南海島、西南群島巨文島、馬島、牛島、等あり、西に海南群島珍島、安眠島、江華島、喬桐島、身尾群島等あり。

海岸。朝鮮國は三面に海洋を環らすを以て海岸線の延長は一千七百餘裡に達すべし、而して其の東岸は彎曲に乏しくして僅に元山津の一灣あるのみなれども、南岸には釜山港を始めとし其の他に數多の屈

曲あり、西岸は南部に於て彎曲多く島嶼の羅列するあるも北方に趣くに從ひて漸、單純なり、因に記す此の國に於ける潮汐満干の差は非常に著しくして最、多き處即ち西岸の中部にては此の差は三十三尺に達せり、之より南下するに從ひて漸、減少して忠清道の二十四尺と成り、全羅道の十三尺と成り、釜山に於ては六尺に過ぎずして元山津に至れば僅に一尺なりと云ふ。

山誌。此の國は山岳多き地なり、主要の山脈は白頭山脈五臺剛山にして北の方長白山脈より分派し來り、半島に入りては東部に偏し蜿蜒して南下せり、白頭山脈の太白山附近に於て、西南に向ひて走行せる一支脈あり、名づけて三南山脈小白山、島嶼、知異山と云ふ、又北方に於ける白徳山脈も亦稍、著しきものとなす、火山脈は本半島中に存すれども甚、顯著ならずして活火山の噴出あるを聞かず、唯、温泉は處々に湧出せり、就中著

名のものを鷲岩山、金井里、密陽、温水坪、臥龍山等なりとす。

水誌。 主要の山脉が東部に偏在して半嶋を縦断せるを以て、日本海斜面は狭長にして豆満江の外に大河なく、海峡斜面は稍廣濶なるが故に洛東江の如き巨流あり、而して黄海斜面は廣袤の最著しきものなれば最、大河に富めり、然れども元來朝鮮國は一小半嶋に過ぎざれば大河巨流と稱するも其の長は百里前後なりとす、今茲に三斜面に就きて主なる河流を列擧すれば日本海斜面に豆満江(一ニニ國門)あり、海峡斜面に洛東江、岳陽江、鴨綠江あり、黄海斜面に榮山江、錦江、漢江、大同江、清川江、鴨綠江あり。

此等の河流の中にて特に注意を要するは豆満江、洛東江、漢江、大同江、鴨綠江なり、豆満江は源を白頭山に發し長きは八十里ありてロシアと本國との境界を爲せり、洛東江は源を太白山に發し沿岸の地を潤し下流三十里には通航の便あり、而して長は源委通じて百二十里に達せり、漢江は源を金剛山に發する河流にして長は五十里に過ぎざれども其の支流臨津江と共に京城の附近にあるを以て名を知らる、大同江は銀山に源を發し七十里の長を有する巨流なるが日清事件以來、殊に有名になれり、鴨綠江は白頭山より發する一の水脈にして濁流淡々として百餘里に達す、朝鮮と清國との境界に當れり。

地勢。 全國の地勢は北部に高く、東部之に次ぎ、西部と南部とは稍低くし、高山秀嶺と稱すべきものなきも丘陵は甚多くして平低の地は少なきが如し、而して其の平野と稱すべきもの多くは河流の沿岸若しくは海濱にありて廣袤の大なるものなし、されば中に就きて廣袤の稍著しきものを列擧せんに、咸鏡平野は長は十里に達し幅は四五里ありて地味も亦佳良なりと云ふ、洛東平野は洛東江の沿岸にありて廣袤は大ならざるも、濕潤宜しさを得、地味も亦悪しからず、漢江沿岸の地は鹵

瘠を覺ゆ大同江沿岸の平野は廣袤稍大にして地味は肥瘠相半せり其
 の他沿海の小平野には肥沃の地なきにしもあらざるも概々土壤瘠せて
 田園を開くに適せざるが如し

氣候。朝鮮國はシベリア并に滿洲地方に連続せる一の半島なれば、
 三面に海洋を扣ゆるも黒潮暖流の餘派は僅に南東の海岸に接觸する
 に過ぎざるを以て氣候は概々大陸的にして夏季には炎暑に苦み冬季に
 は嚴寒を覺ゆるが如く寒暑の差極めて甚しとす降雨も夏季に甚く
 して屢豪雨の來るあり冬季は稍乾燥なるも亦降雪なきにしもあらず、
 然れども地方に依りて多少の差異ありて東岸並に西岸の北部は共に
 寒冷にして冬期には積雪の丈餘に及ぶ處ありて河海の水結するを常
 とせり之に反して南東地方は氣候温暖にして大寒の候と雖積雪は三
 四寸に過ぎずと云ふ而して中部の地方は氣候稍温和なるが如きも冬

期に至れば河水の水結することあり

天産。朝鮮國は天産に豊富なる地と稱すべきに非ざるも各種の物
 産の生出するありて其の量も亦少なからざるが如し、鐵物には金、鐵、銀
 鉛、銅、石炭、硫黃等あり植物は人參を以て最とす其の他に米穀、豆類、藥草、
 果樹、海草、楮、漆等の産あり動物は野獸に虎、豹、鹿、青鼠、貂、獺等あり野禽に
 鶴、鷺等あり家畜に牛、馬、羚羊あり蟲類に蜜蜂、蠶等あり魚類は其の量甚
 多からざるが大口魚、明太魚、海參等を以て稍著しきものとなす、

政治之部

沿革。朝鮮國は其の始め君長なし桓王儉なるもの自立して王と成り檀君と
 稱し平壤に都して國號を朝鮮と云ふ之を前朝鮮とす檀氏に繼ぎて此の土に王
 たりしものを箕氏とす傳へて箕準に至り衛滿の亂ありて箕氏亡ぶ(前一四六三)
 後朝鮮は衛氏と共に亡びて(前一〇六)漢の版圖に入れり(六一〇〇)而して大同

江以南の地に於て西部を馬韓と云ひ東部を辰韓と云ひ南部を辨韓と云ひしが是世に所謂三韓にして馬韓の箕氏最強大なりき此の三韓の亡ぶるや北部に高句麗起り南西に百濟現はれ南東に新羅ありて三國鼎立したりしが新羅は唐を併せて百濟高句麗を亡ぼし統一の業を成せり新羅(六六八―九四二)の後を受けたるは王建にして國號を後高麗(九四二―一三九二)と改め松岳に都せり王氏の衰ふるや李成桂立ちて王となり國號を再び朝鮮と改め(一三九二)陽漢に都せり之を現今の朝鮮即ち新朝鮮とす

明の高麗二十年日本の倭掠を蒙りて國殆ど亡びんせししが明軍の援助ありて僅に存立するを得たり(一五九二―一五九八)明朝の亡びて清國の之に代はるや朝鮮は清國附庸の地と成りて(一六五三)二百有餘年を経過せしが明治九年(一八七六)に至りて日本は此の國の獨立を認めたり以後アメリカ合衆國(一八八二)イギリスドイツ(一八八三)イタリヤロシア(一八八四)并にフランス(一八八六)も亦朝鮮國を以て獨立國として條約を締結したり然るに北京朝廷は此の國を以て自國の屬地なりと主張し遂に日清の間に開戦するに至りしが清國の連戦連敗は馬關條約と成

りて朝鮮の獨立は世界萬國の公認する所と成りたり

種族。朝鮮人は外觀上單純の種族にして蒙古人種に屬する如くなれども細に觀察すれば數派の民族の混同より成れるかを疑はしむ或は土人に交ふるに印度種族を以てせしと云ひ或は土民と滿洲種族との混同したるなりと云ふ

人口。朝鮮國の人口は一千五十二萬八千九百三十七人にして其の内五百三十一萬二千三百二十三人を男とし五百二十一萬六千六百十四人を女とすされば一方并に付四十七人の割合なり然れども一説には此の數を以て過大なりとして概數七百五十萬を以て眞に近きものとせり從て一方并の人員は三十四人と成るなり

言語。中流以上の社會にては多く漢文を使用すれども普通には諺文と稱するもの行はるるが如し而して言語は入道到る處同様なれど

も地方に依りて語調に多少の訛ありと云ふ

教育。往昔は文化の盛なる國なりしが、今は百事衰頽して學問の如きも僅に虛文を尊崇するあるのみ、二三學校の設けなきにしもあらず、れども畢竟官吏を養成するに過ぎず、又字房と稱する私塾ありて經書詩文習字等を授くるも所謂普通教育として見るべきものにあらず、要するに古風の陋習を墨守し徒に舊時の事蹟を慕ふに止まりて、内外の事情に通じ自國の改良進歩を圖るが如きは絶えてなし、女子の如きは裁縫、其の他の家事を業とするのみにて文字を學ぶもの甚だ稀なり

宗教。朝鮮人の多數は儒道を信奉し孔孟の教を以て人倫道德の基となし冠婚葬祭の儀式の如きも概し儒式と稱するものを用ふるなり、佛教は昔時に於ては甚だ盛なりしが現時にありては衰微の極に達し僧侶自身の外は殆ど顧みるものなし、而して近年は耶蘇教を信するもの漸増

加して新舊の二派を合すれば信者の數は三萬に及ぶと云ふ

氣質。抑朝鮮人なるものは往昔にありては半島國に獨立し學を勵み業を勤めし人民にして文化の度も高かりしが中古以來近隣強大國の侵害を蒙りて漸次に衰へ遂に今日あるを致せり、されば此の土の住民の氣質に就きては實に言ふに忍びざるものあり

風俗。朝鮮人には兩班、中人、常漢の階級あり、兩班とは東班、西班を合せ稱したるものにて文武の政權を掌握せり、中人は稍、文筆あるも下級の官吏たるを得るに過ぎず、常漢とは我が國の平民の如きものを云いて農工商等の實業に従事せり、級外に僧尼、皮漢、才人等ありて社交上、常漢の下位に立てり

衣服には緩濶なる筒袖の上衣と膝下に於て括約せる廣濶なる袴とを用ふ、布地は概し粗織の綿布、麻布を以てし稀には紗、絹、綸子を用ふるこ

どあり、服色は青色白色多くして小兒は紅青紫等を交ふ、寒氣の凜烈なるにも拘らず厚綿を入れたる衣服を用ひず、蓋し平常温室内に起臥する故ならん、履物は藁を以て造くるを常とし、貴族に非ざれば革沓を穿たず、冠は階級に依りて各、其の趣を異にするも一般に之を着用せり、食物には米麥を主とし魚、鳥、蔬菜、獸肉等を副とするは恰、我が國に似たり、唯、肉類を食すること稍多しとす、殊に普通の人民には犬肉を喰ふもの甚多し、飲料には米麥より製したる酒類又は茶、蜜水を用ふ、住居は概々矮小にして層樓なく藁葺なり、官廨若しくは富貴の家に非ざれば瓦を用ふることなく、通常の家屋は三室より成り一を居間と座敷とに宛て、一を物置とし、一を竈のある所とす、殊に奇なるは屈爐の築造方なりとす、官舎寺院には頗る宏壯に見ゆるものあれども其の結構は甚だ粗魯たるを免れざるが如し

政體。此の國の政體は所謂君主專治に屬するを以て大君主は萬機を獨裁せざるべからず、然れども實際には内閣なるものありて大君主を輔佐翼賛し百般の政務を處理せり、而して内閣には總理大臣を始めとし内部、外部、度支、軍部、法部、學部、農商工部の各部に長官たる八名の國務大臣ありて中央の政權を掌握し、地方には若干の道郡を設けて各地の行政を司れり、中樞院は大君主の至高顧問府たり、裁判所、關稅司、徵稅司等は民刑の訴訟を聽き關稅、租稅等の徵收に従事せり

行政區畫。全國を京畿道水原、忠清北道忠清南道、全羅北道全州、全羅南道光州、慶尙北道大邱、慶尙南道晉州、黃海道海州、平安南道平壤、平安北道定州、江原道春川、咸鏡南道咸興、咸鏡北道鏡城の十三道に大別して、每道に觀察使を置き、各道を若干郡に細分して、每郡に郡守を置けり、而して廣州、開城、江華、仁川、東萊、德原、慶興に府を設けて、府尹を置き、濟州嶋には牧使を置けり

兵備。舊式の兵卒は一萬以上ありたれども兵器なく訓練なくして更に實際の用を爲さざりしを以て今は之を全廢したり而して之に代ふるに日本人の訓練に係る歩兵三大隊を以てせり

生業。往昔朝鮮國は百業の稍發達せる地にして産物にも觀るに足るもの多かりしが外には強大國の壓抑を受け内には苛法重斂の餘弊を蒙りて遂に今日の如き悲況を現出するに至れり

農業は其の耕種法の不完全なると灌漑法の不整備なるとに拘らず生産の主力たるを失はず而して農産物は米を第一とし其の年産額は七八百萬石に達すべし之に次ぐは麥、蠶豆にして其の産額も亦少なからず牧畜は農業に次ぎて此の地の生産力の一要部を占む牛は各地に産じ其の種も亦佳良なり馬は體軀矮小なるも又能方役に堪ふるが如し漁業は此の地が三面に海洋を帯ぶるを以て多小の収益を興へざる

べからざるも漁具漁法の共に不充分なるが故に産額は甚多からず魚類の主要なるものは鱈、鯛、鰻、鯖、鱈等にして殊に明太魚は此の地の名産たり、蠶業も亦此の國の重要生業たり、縦令現時に於ては甚盛ならずと雖、頗有望の事業なり、砂金は國內處々に産出して其の概算額は七八十萬圓とす、砂鐵は良質にして産額も亦多量なり、其の他に銅、鉛等の産あれども産額は顯著ならず、又工藝の萎靡として振起せざるの狀勢に至りては實に驚嘆するの外なきなり、されば些少なる製作品に就きて二三種を列舉せんに製紙を第一とす、簾は全州、大丘等に於て製し、扇子、團扇は羅州、全州、開城、大邱等に産し、花蓆、茵蓆は慶州、江華、喬桐に於て作り、袖類は各地に多少の産あるも殊に平安道には多量の産出あるが如し、而して此の國內部の商業の不振なるは主として物産の饒多ならざるに基づくべしと雖、道路の整備せざると他に種々なる情弊の存する

に因らざるはあらす、貿易は其の價額より觀れば勿論微々たるものなれども、此の國の經濟より考ふれば亦侮るべからざるものあり即ち次に明治十八年以降累年の輸出輸入の金額を揚載したるを以て此の地の貿易が如何なる情勢を呈するか又一浮一沈を免るる能はざるかを知らるべし

年次	輸 出	輸 入	合 計
明治二十六年	三三,七〇〇	三六,〇〇〇	六九,七〇〇
同 二十五年	三三,六〇〇	五五,九〇〇	八九,五〇〇
同 二十四年	三三,六〇〇	五三,四〇〇	八七,〇〇〇
同 二十三年	三三,〇〇〇	四九,八〇〇	八二,八〇〇
同 二十二年	三三,〇〇〇	四九,〇〇〇	八二,〇〇〇
同 二十一年	八六,七〇〇	三〇,三〇〇	一一七,〇〇〇

而して輸出品中の重要なるものは米穀、砂金、豆類、牛革、魚類等にして輸入品中の重要なるものは綿布、絹布、銅、石油等なり
又明治二十六年の輸出入品に就きて食料、原料、製作の三種の百分比例を觀るに左の如し

品 種	食 料	原 料	製 作
輸出入			
輸 出 品	四七、八	五〇、四	一、八
輸 入 品	五、六	一九、七	七四、七

貿易港は仁川、釜山、元山の三港なるが輸出入の金高より觀れば仁川港を以て第一とす

交通。道路の設備は至りて不完全にして交通上極めて不便なり、八道の主要なる都會の間を連絡する所謂王路の存するあるも修繕改築すること絶へてなく、行路の難さ實に名狀すべからず、然れども地方に依りて多少の差異ありて京城より松都、平壤等を経て義州に至るの街道は稍良好なるが如し、而して江原地方の道路は劣等にして甚だ險惡なりと云ふ、王路の外に村落を連絡する通路あるも多くは踏分け道にして天然の狀勢に依るものなれば屈折、廣狹、等素より均一ならず、到底尋常普通の道路として使用し得べきものに非らず

水路に就き一言せんに陸上にありては洛東江、大同江等の如き航行し得べき大河なきにしもあらざれども、朝鮮人の無頓着なる河道を改良し土砂を浚渫することなきを以て天然の航河も充分其の功を奏する能はず、海路に就きても凡そ一千七百哩の海岸線あるに拘らず、脆弱な

る船舶と三三の小汽船とを有するに過ぎざれば、輸出輸入の貨物の運搬を始めとし主要なる沿海の航行に至るまで均しく外國船、特に日章旗船に依頼せざるべからず

電信。電信線の架設は未だ各地の名邑を連絡するに至らざるも、亦主要なる行政の中心の間には電書の往復に不便を缺かざるが如し、而して従來行はれし驛傳の法に依りて布達、公文等に限り、其の送達を司りしが、這般の大改革以來新事業の一として公共の爲に信書の發着を取扱ふことなりしが、施設の日尙淺きを以て其の状況を詳にせず

外交。朝鮮國と嗜好條約を締結して通商貿易を爲す國は日本、清國、ロシア、アメリカ、合衆國、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア等の八ヶ國なり、

財政。百般の事業の振はざるを徵税法の宜しきを得ざるとは財源

の損失を來たして、實收は漸次に減縮し遂に現時の悲況を呈するに至り、今茲に此の國の歳入に就きて概況を記述せんに各種の貢物を金額に見積れば米三百萬圓、綿布五十萬圓、銀二十萬圓、海關稅二十萬圓、人參稅十萬圓、砂金稅三萬五千圓等にして總計は三百三萬五千圓と成るなり而して歳出は改革の際として自然に多額を要するを以て幾分の不足を生ずるもの、如し

○京、北緯三十七度三十分、東經百二十七度四分 處誌 漢陽と云ひ又セウルと稱す、朝鮮國の王都なり、今を距る五百年前、李氏の立ちて王位に即ぐや移りて此に都す、當今は内閣を始めとし各部衙門等のあるありて此の國

の行政機關又は文物風化の中心たり、漢江、西江の二水に挾まれ、三方に山脈を控へ、海岸を距ること五里餘の處にありて、要隘の地なりとす、市の北西に宮闕あり、景福宮と稱す、其の外郭は一里餘にして、壘壁の高は

一丈五尺なり、河流を引きて、甌濠を爲す、其の幅は三間餘あり、東西南北各三門を設く、其の南にあるは正門にして、光化門と名づく、王城の周圍に市街ありて、東西三十町、南北二十四町にして、其の四分の一は官衙公署若しくは貴族の邸宅なり、普道の家屋は矮陋にして見るに足らざるも、商賈は輻湊して甚だ殷賑なり、市内を分ちて東西南北中の五區とす、道路には大路中路小路の三種あり、街衢は宏濶ならざるも頗る端麗なり、市の周圍に城郭あり、胸壁の長は四里半に達し、高は二間に近し、八門を構へ、夜中は之を閉鎖して、市民の出入を嚴にせり、此等八門の中にて、興仁、崇禮の二門は八道に通ずる大路の起端なりと云ふ、崇禮門即、南大門の近傍に泥峴と稱する地あり、日本人の居留地にして、所謂京城の日本町なり、人口は凡そ二千ありて、貿易其の他の雜業に従事せり、京城を距る一里半、漢江に瀕する地に龍山あり、開市場とす、麻浦は仁川に往來する舩

船又は小蒸氣船の發着地なり仁川港(六〇〇〇)即仁川府濟物浦は明治十
 六年を以て開港せし處なるが小漁村は乍變じて繁華の小都會と成り
 たり此の地は我が長崎を距ること四百五十餘哩にして本邦との貿易
 は漸次に旺盛に趣けり輸出の重要品は大小豆米麥皮白人參砂金等に
 して輸入は綿布毛布雜貨等なりとす居留地は北西より南東に亘りて
 イギリス清國日本ロシアドイツ等に區分せらる其の日本居留地には
 四千有餘の本邦人居住し商店を開き倉庫を設けて盛に貿易に従事せ
 り學校あり病院ありて恰日本内地に於ける市街の如し開城(五〇〇〇)
 は一に松都と號す高麗の王氏四百年間の舊都にして王城堡障の一た
 り人參油紙の産ありて市街は繁華なり(以上京)白川は黒田長政が明兵
 を敗りし處なり(文祿三)平壤(七〇〇〇)は大同江に瀕し大城山に據る要
 害の地なり箕氏衛氏は此に都せり市街は繁華にして關西の大都會た

り兎山に崇仁殿あり箕氏を祭る此の地は小西行長が祖承訓に勝ち(文
 正)李如松の爲に敗られし處なり(文祿三)而して日清戦争の際に我が
 軍が敵軍を抱圍攻撃して有名の大勝利を得たる處なり義州(二〇〇〇)
 は鴨綠江に枕み丘陵に據る海東の第一關たるに恥ぢず此の地に柵門
 大市を開く百貨の輻湊すること夥しと云ふ(以上平)元山(二〇〇〇)は三
 開場の一なり通商港として新設せられしは一千八百八十年なり爾來
 漸を以て隆盛に趣くものゝ如し我が居留地は北長徳山に據り東海に
 瀕す領事館の設あり在留本邦人は其の數一千四百有餘に達せり此の
 地は長崎を距る四百六十哩馬關を距る三百八十哩なり(以上咸)原州
 は江原地方の一都會にして交通の衝に當り稍繁華の地なり春川は驍
 貊國の古都たりし處なり鐵原は新羅の王子泰封弓裔の都せし處なり
 江陵は山海の景勝を以て著はる(以上江)金海は洛東江海口の西にある

一都會なり、舟楫の便ありて百貨輻湊せり、此の地は古の駕洛國の都たりし處なり、釜山(二〇〇〇)は我が對馬島に對し相距ること僅に四十裡なり、快晴のときは遙に炊烟を望むべし、日本と通商を開きしは明治七年(一八七六)にして一千八百八十年以來は一般の互市場と成りたり、市街概草蘆にして瓦屋少なく貿易は綿布類、銅酒、其の他の雜貨を輸入して豆類、大麥、米、牛革を輸出す、仁川の開港以來少しく衰頽せしが又此の國の要港たるを失はず、日本居留地は絶影島に對し龍首、龍尾、三山の麓にあり、市街を東館と號す、人口は四千五百あり、此の地と長崎との間に海底電線あり、蔚山は壬辰の役、加藤清正が明の三十三將と韓の七將との合圍を受けて苦戦せし處なり、(慶長三年)慶州は鷄林君子國と稱せ、新羅の舊都なりし處なり、大邱(二八〇〇)は百貨の集散地にして商業甚盛なり、毎年二回會市を開く、明治十八年以來日本も亦開市の際は此の地に行商す

るを得るなり、安東は名所舊蹟に富む、文人墨客の來賞するもの多し、尙州(七〇〇)は一に洛陽と稱す、殷賑の地なり、星州は古の伽倻國にして山水明媚の地なりとす、晋州(六〇〇)は繁華の地なり、壬辰の役、我が兵、此地に居りて重圍の中にあらしこと四月に亘りたり、泗川は島津義弘が大捷を得たる地なり、開山島は壬辰の役、海戰のありし處なり、(尙道)全州は後百濟の都せし處にして魚鹽の利と舟楫の便とを併有せり、市街は繁榮にして全羅道第一の都會なるが籐を産するを以て名あり、季太祖の墳墓あり、祖陵と稱す、南原は一都會にして城郭を構ふ、壬辰の役に激戰のありし處なり、濟州島は魚利多き地なり、本邦人の往漁するもの多しと云ふ、(羅道)全公州は車嶺の南、錦山の北にあり、舟楫の便あり、百貨輻湊す、實に忠清道第一の都會たり、忠州も亦交通上の要區たり、人家稠密、商賈輻湊して市街頗盛なり、壬辰の役に日本諸將の勝戦せし處な

り、**牙山**は明治二十七八年の役我が軍が大勝を得たる處なり(以上忠)

●清國

自然之部

境域。清國はアムール州の東部より起りて中央に達する一大帝國たり、其の極南の地は海南島の南端にして北緯十八度十三分に當り、其の極北の地は蒙古の**喀爾奇克達爾嘎克山脈**の北端にして北緯五十六度四十分^カに當れり、極西は**喀爾喀**の西界**葱嶺**にありて東經七十一度五十分^カなり、又極東は**黒龍江**と**烏蘇里河**との合流の地にして東經百三十三度五十二分^カなり、此の國の形狀は東部の海岸線を底とし、中央部の**ウラル山**を頂點とする所の一の弧狀線三角形なり、而して境界は北西及北に**天山****阿爾泰****塞楊****喀爾奇克達爾嘎克**等の山脈并に**黒龍江**に依りて**ロシア**の**シベリア**に接し、東には**烏蘇里河****長白山脈****鴨綠江**を挟みて

ロシアの沿海州及朝鮮國に隣り、黃海、東海を控へ、南は南海を受け、アラビヤの東京、并に暹羅、緬甸に接し、南西は比馬拉亞、喀喇崑崙の山脈、巴密爾高原等を隔て、イギリス領の印度に隣れり、廣袤は南北凡三千五百里にして東西は凡五千二百里なり、面積は一千一百八萬餘の方里を有し、世界の諸國の中にてイギリス、ロシアに次げる大國なり、即ち之を我が帝國に比すれば凡其の二十七倍に當れり。

- 渤海(北海)
- 直隸灣
- 遼東灣
- 萊州灣
- 榮城灣
- 膠州灣
- 黃海
- 朝鮮灣(旅順口)
- 烟臺灣(芝罘灣)
- 東海(東支那海)
- 揚子江口
- 杭州灣
- 寧波灣
- 臺州灣
- 温州灣
- 福州灣

福建海峽、泉州灣、廈門灣、南海南支那海、詔安灣、海門灣、廣東灣、東京灣、北海港、又海峽の主なるものは、直隸海峽、老鐵山水道、福建海峽(臺灣海峽)、海南海峽等なり。

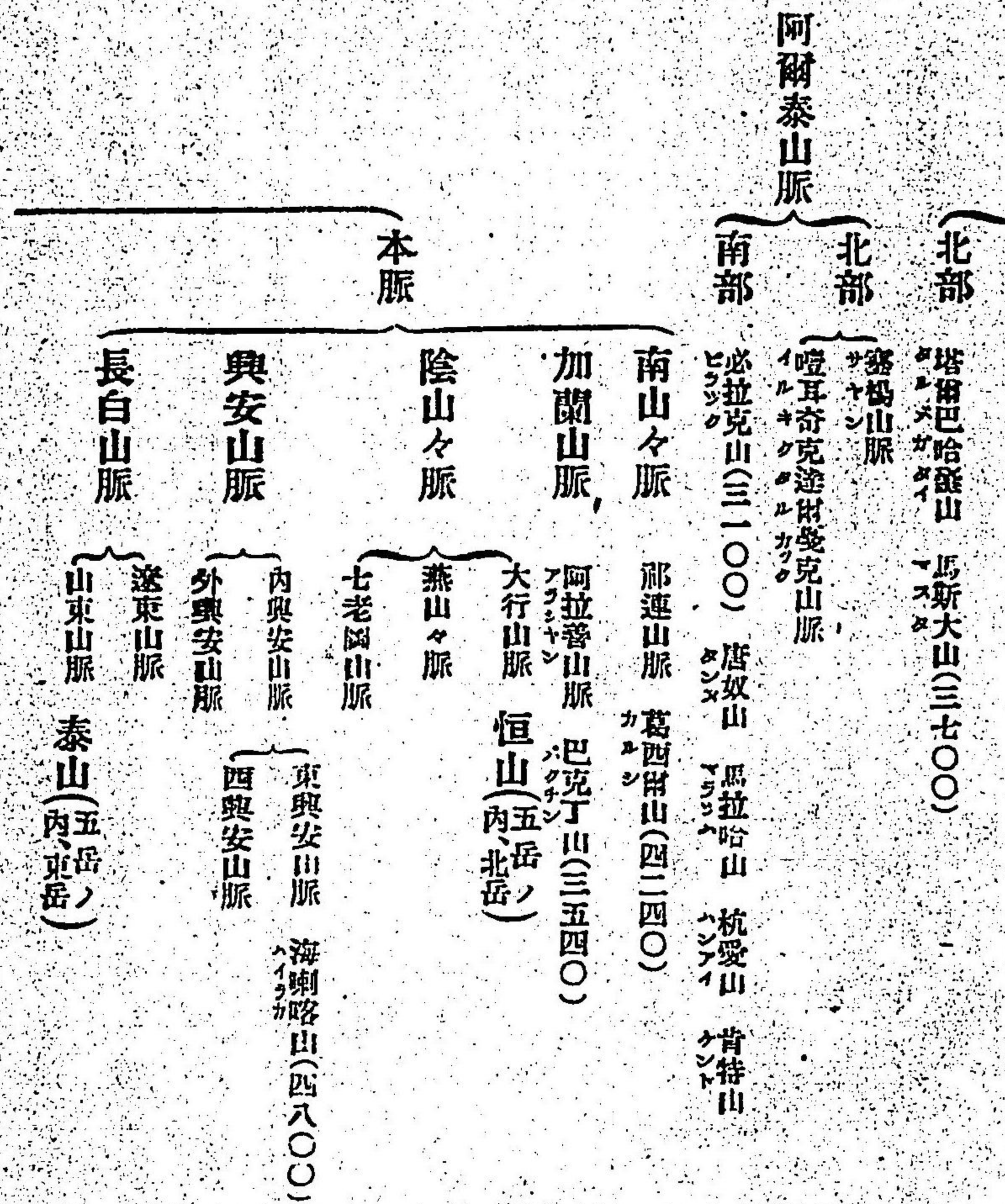
陸部、半島には遼東半島、山東半島、雷州半島等あり、地角には旅順角、長山岬、山東岬(成山角)、揚子角、冠頭岬等あり、嶋嶼には桃花嶋、光祿島、長山列島、廟列島、崇明島(長四十六里)、舟山列島(普陀山)、海壇島、金門島、廈門島(周一里)、南漁島(長六里)、大滌島(長七里)、海南島(長七十里、幅四十里)等あり。

海岸、此の國は前にも述べし如く海洋に接する部分の比較的に多からざるのみならず、海岸が概して屈曲出入に乏しきを以て海岸線の發達は充分なりと云ふを得ず、其の延長は凡三千五百里に過ぎざるべし。

し、而して嶺山の大なるものは北部にありて、遼東と山東との二半島は渤海を抱きて遼東直隸、萊州の三灣を形成するも、良港と稱すべきものなし、中部の東海并に福建海峡に瀕する海岸には顯著なる出入を見ざるも亦佳良なる港形を呈せざるに非ず、然れども南部の南海に接する海岸にありては廣東灣、其の他、二三の小灣を見るのみ

山誌。世界の屋棟と稱せらるゝ巴密爾高原の葱嶺、喀喇崑崙山脈より發出する數條の大山脈は、開きたる扇の骨の如く、或は北東に行き或は東に向ひ又は南東に赴き、以て此の廣大なる支那の國土を抱括せり、其の北東に行くものは天山々脈、阿爾泰山脈の一派にして、中部に於けるものは崑崙山脈に屬し、南東に走れるものは喜馬拉亞山脈なり。

天山山脈
西部 騰日爾牙得山 山新北爾山(五〇〇〇)
東部 那喇特山



崑崙山脈

北嶺

巴顏哈喇山脈
ハエンハラ

西傾山脈

雪蘭山脈

巴山々脈

六盤山脈

秦嶺山脈

華山(内、西岳)

伏牛山脈

嵩山(内、中岳)

雪山々脈

他念他翁山脈

横斷山脈

雲嶺山脈

素龍山脈

大雪山脈

霧縉結山脈

喜馬拉亞山脈

南嶺

苗嶺山脈

鳳嶺山脈

牛塘山脈

大庾山脈

八十里山脈

衡山(内、南岳)

仙霞山脈

萬洋山脈

西部

南他地威爾山
ナムヂビ

中部

達達刺吉利山(八七一六)

葛利桑加爾(八八四〇)

康珍單葛(八四八〇)

東部

知馬刺利山(七九〇〇)

水誌。清國は土地廣大にして高嶺秀峯に富めるを以て、長流巨川に乏しからず、特に降雨積雪の盛なる地方に水源を發する江河は多量の水を輸送するを以て灌漑の利と交通の便とを與ふるもの甚だ多し而して山脈の趨勢と流域の狀態とに依りて江河を類別し本流并に主要

なる支流を列擧すれば次の表を得べし

北氷洋斜面此の斜面に屬する河江は概して上流のみなり 伊犁河 イルチシ河 イエニセイ河

クワケン河 サレンガ河

太平洋斜面 黒龍江松花江 鴨綠江 遼河 樂河熱河 北河白河

黄河汾水、渭水、洛水 淮河 揚子江雅龍江、岷江、沱江、嘉陵江、湘江、漢江、淮江、滬江 浙江 閩江 珠江

西江、北江、東江、眉公河瀾滄江

印度洋斜面 怒江撒爾烏音河の上流 龍川江易喇控河の上流 藏布河布刺馬布土河の上流 卍

トレン河上流 印度河上流

中央閉塞地 塔里木河葉爾羌河 和闐河、喀喇沙爾河

黒龍江はアジア東部の一大江にして其の源流に二派あり、其の一をロシア領のチンギン山より發するインゴタ河と云ひ、其の二を外蒙古の肯特山より出づる敖嫩河と云ふ、此の二流の相合するや什勒喀河となり、額爾古納河を容れて始

めて黒龍江と稱す、本江は松花江松花里烏喇と云ふ、巨大なる合流を受けて江身を増大し曠野の地を過ぎ、或は多くの分流を生じ、或は湖澤の状を呈す、烏蘇里河の本支二流を合せたる後は江身愈々廣潤となり方向を北に轉じて森林地を潤し、處々に洲嶼を形成せり、此の江の下流は甚々濶大にして波濤の起ること恰も海洋の如く水層は極めて重厚なりと云ふ、兩岸は高隆にして樹木鬱蒼たり、江口は難粗海峡のテパフ岬とブロンク岬との間にありて樺太嶋に對せり、本流の長さ凡そ四千四百軒ありと稱す

黄河は青海蒙古の南西、巴顏喀喇山脈の北東の高地より流出する諸水相合して阿爾坦河となり、查靈湖、鄂靈湖を経て甘肅省に入りて黄河と稱す、山地を流下し沙漠の地に行き大彎曲をなして河套を繞り龍門の險を過ぎ、平坦なる沙原に出でて水勢漸く散漫し、黃濁たる流水は沿岸の地に損害を蒙らしむること屢なり、とす、原來本流の河道は西曆一千八百五十五年の大洪水以後のものにして、大清河の古道に依れり、従て河口は直隸潯頭にあり、本河の全長は凡そ四千二百軒なり、此の河は清國第二の巨流なれども水勢の急激なるは河道の一定せざるに依

リ瀘浙上、多少の利便を興ふるも、要するに有害無益の河流なりと云はざるを得ず、而して支流には多量の水を輸送し來るもの少なく、左岸の汾河、右岸の渭河、洛河を以て稍顯著なるものとす

揚子江は世界有数の一大江にして、アシア洲第一の巨流たり、源流は青海高原の巴顏喀喇山脈の南西に發する那木春崗、爾木倫井に其の他の數派にして、相合して木魯烏蘇と成り、山地を流下して四川省に入りて金沙江と稱し、雅龍江を受けたる後は大江又たは長江と稱す、山間の地を流れ行きて河幅縮小し、峽江と唱ふるの實を呈するも、岷河、嘉陵江、湘江等を容れて江身愈廣大となり、頗る水量に富めり、江寧府即ち南京を經過したる後は揚子江と云ふ、河口は崇明島の爲に二つに分たれ、南口は廣濶にして巨船の航通に適し、北口は稍狹小なるも支那船の出入するを妨げず、本江は源委通じて五千一百軒を有せり、此の江井に其の支流は土壤の佳良なる沿岸の地を潤し、瀘浙の利を興ふるのみならず、航通の便を供するに恰、地中海の如き感あり、下流は宜昌に至るまで自由に汽船の行馳するを觀る殊に九江以下は四時ともに大船巨舶の定期に上下するあり、而して中流以上と

雖も水量少なからざるを以て舟楫の往來には妨げなきが如し

沼湖。清國は邦土の廣濶なるに拘らず、著大なる湖澤を有せず、然れども其の數は少なからずして、沼湖の多き地は東部の沿海の地、揚子江畔井に北西の高原等なりとす

北氷洋斜面

庫蘇克爾湖

呼倫湖 三角淀

寧晉澤

大陸澤

清水泊

太平洋斜面

洪澤湖

寶應湖

巢湖

太湖

鄱陽湖

長四十三里 幅七十里

洞庭湖

長二十里 幅二十里

滇地

周圍七十 洱海

印度洋斜面

巴爾齊湖

中央閉塞地

庫々諾兒

羅市諾兒

鄱陽は古名を彭蠡と云ひ、周圍は八十里、長は四十里、湖は六七里あり、湖口に依りて、大江に注水せり、康耶山、鞋山、大孤山等の嶋嶼は湖上に屹立し、樹木藪藪とし

て繁茂す、有名の勝地とす、又漕運の便ありて交通上極めて肝要なる處とす、洞庭湖は清國第一の大湖にして長三十三里、廣十五里あり、此の湖は湘江、沅江、其の他の數流を容れ、一道の江流に依りて揚子江に通せり、湖上に數個の小の現出するありて、殊に君山を以て著明なるものとす、其の高は二十尺以上三千尺に達せり、本湖井に之に關する流水を合すれば、灌溉上頗る便益を興ふるものなり、青海(庫、諸兒)は海拔三千米突以上の高地にあり、周圍は一百二十五里に達する橢圓の形を有す、大通江、其の他の數派を容るゝも、出水口なきを以て鹹湖をなせり、湖の周圍は高樹秀峯の蟠亘するありて、風光極めて明媚なり。

地勢。北西地方は七百五十萬方杆の面積を有し、帝國全土の五分の三に當れるものなるが、一大高原を形成して、周圍には高山秀嶺に富める山脈を繞らせり、喜馬拉亞山脈の北面にありては、平均四千米突以上の高臺なるが、數個の階段を爲して漸次に低下し、戈壁の砂漠、蒙古の草原となれば、海拔は一千一百乃至九百米突なりとす、東部并に南東地方

にありては、中央の臺地より分派せる數多の並行山脈は高地より流れ来る諸水の域流、谷地を形成せり、殊に黄河と大江との流域は廣大なりとす、南東地方は殆ど支那本部の全土に當れるが、珠江、閩江、錢塘江等の小流域を除くの外、概して黄青の二大河流に屬せり、北支那は黄河の流域に當りて、陝西、山西の山地を除けば、其の他は低地若しくは臺地にして、黄土の蔽ふ所と成り、河流に乏しく、通舟の便なく、灌溉の利少なく、乾燥に失することあるも、亦麥類の産する好耕地たり、南支那は揚子江の勢力を逞しうする地方なるが、山岳溪谷多く、平地少くして、地貌は極めて錯綜せり、河流は奔水溪流より、河江沼湖に至るまで、其の數至りて夥しく、灌溉の利、交通の便、甚多し、加ふるに氣候温暖なれば、植物の繁茂は極めて盛なり、殊に此の地方は水田に富めるを以て、世界屈指の産米地なり、而して直隸灣と黄海との間に於ける山東山嶺は、長白山脈に屬する

一孤島たりしものならんが黄河、其の他の河流が輸送し來れる泥沙は沖積層を形成して遂に現時の半島を呈供するに至れり

氣候。清國の版圖は甚だ廣大なれば其の氣候の一樣ならざるは勿論なれども原來國土は海洋に瀕すること多からざるのみならず、中央アジアの高地に關連せるを以て自然の結果として氣候は大陸的たらざるを得ず、されば氣候は概してシベリア的の凜烈候にあらざれば熱帶的の炎暑候にして中和を得たる好氣候を有する地は殆ど缺乏せるが如し、本帝國の外藩部并に本部の黄河以北の地は概シベリア的の氣候を有し、冬季は寒威極めて強く、夏季には炎熱烈しく、極寒極暑の差著うして温度の變化も亦甚だ急激なり、春夏の候と雖、降雨は多からず、冬季にありては降雪は少なからずして河水は凍結するを常とす、又風多く風力強き地なるが殊に戈壁沙漠に於ては烈風屢起り、沙塵を飛ばす、其の勢

極めて猛烈なり、而して大江并に南部河江の流域は熱帶に屬するを以て夏季には酷暑を覺ゆるも冬季は温暖にして氷雪に苦めらるゝとなし、春季は降雨多き季節なるも秋季は無上の好氣候たり、然れども立春の頃に於ひて季候風が方向を變ずるの際には大風と稱する旋風の起ることありて國土に損害を與ふること少なからずと云ふ

天産。清國は土地廣大にして山岳多く、河流に富み、高原あり、沙漠あり、草原あり、森林あり、嚴寒の地あり、炎暑の土あり、是れ各種の天産をして此の地に現出せしめたる原因たり、

礦物には銀、鐵、銅あり、石炭、陶土、石材等あり、又火井ありて石腦油を湧出せり、特に水晶、翡翠、石蠟、石其の外、數種の玉類の産出ありて古來有名なり、植物に就きては北部并に西部の地には松杉の類にして、寒氣若しくは乾燥を恐れざる樹木は存すれども概して草木に豊富ならず、之に

反して南部、東部は濕潤にして温暖なる天候の下にあれば植物は大に繁茂して其の種類も亦極めて多きが如し、單に著名なるもののみを擧ぐるも紫檀、黒檀、椰子、藤、沈香、丁子、龍眼、柑類、橄欖、甘蔗、芭蕉、蕃薯、鳳梨等あり、其の他米、麥等の穀類には多量の産あり、動物は北部に熊、虎、豹、駱駝、四不像、騾、驢等あり、南部に猿、犀の類あり、西部に麝、鹿、羚羊あり、其の他牛、馬、水羊、山羊、綿羊等は中央より北西の臺地に産せり、又鳥類は南部に多くして殊に金銀雉、鸚鵡、孔雀、鴛鴦、海東青、鷓鴣等を以て顯著なりとす

政治之部

人口。清國は土地の廣大なるのみならず人口も亦極めて多く其の数は實に三億五千萬と稱す、即ち地球總人口の五分の一なり、然れども支那帝國を組成する各部に就きて考ふれば、人口の配付に非常の差異不

平均ありて或は稠密にして一方軒に付きて二百十人を有するあり或は十方軒に付僅に六人を有するに過ぎざる部分あり、又戈壁沙漠若しくは西部の山地にありては殆ど無人の地たるか如き處あり、

面積

人口

一方軒に付人口數

清國全部	一二〇八、二〇〇、〇〇〇 <small>方軒</small>	三、五七二五、〇〇〇 <small>人</small>	三三一人
漢土(十八省)	四〇一、〇一〇、〇〇〇	三、四五二五、〇〇〇	八三
1 直隸	三〇、〇〇〇	一九三五、〇〇〇	六四
2 山東	一四、五〇〇	二五〇〇、〇〇〇	一七二
3 山西	二二、二〇〇	一一〇〇、〇〇〇	五四
4 河南	一七、六〇〇	二二二〇、〇〇〇	一二〇
5 江蘇	一〇、〇〇〇	二二〇〇、〇〇〇	二二〇
6 安徽	一四、〇〇〇	二二〇〇、〇〇〇	一四八

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7
貴州	雲南	廣西	廣東	四川	甘肅	陝西	湖南	湖北	浙江	福建	江西
一七四〇〇〇	三八〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二五九一〇〇	五六六〇〇〇	三三五〇〇〇	一九五〇〇〇	二二六〇〇〇	一八五〇〇〇	九五〇〇〇	一一〇〇〇〇	一八〇〇〇〇
七七〇〇〇〇	一一〇〇〇〇〇〇	五二〇〇〇〇〇	二九七〇〇〇〇	四五〇〇〇〇〇	九三〇〇〇〇〇	八三〇〇〇〇〇	二二〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇	一一八〇〇〇〇	二〇五〇〇〇〇	二四六〇〇〇〇
四四	三一	二六	一一三	八〇	一八	四三	九七	一六二	一三四	一七〇	一三七

滿洲(東三省)	1 奉天	2 吉林	3 黑龍江	蒙古	新疆	西藏
九四二〇〇〇	二二五〇〇〇	一九五〇〇〇	五二二〇〇〇	三五四三〇〇〇	一四二六〇〇〇	一一〇〇〇〇〇
七五〇〇〇〇〇	五二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇	三三〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇
八	二四	一〇	〇六	〇六	〇七	一

人種。國土の廣大なる、人口の饒多なる、支那の如き國にありては勢。住民は單一の人種たる能はず、然れども大體は地理學者の所謂黄色人種、即ち蒙古人種に屬せり、而して之を大別すれば漢族、通古斯族、蒙古族、東干族、苗族の五族と爲すを得べし。漢族は此等の種族中にて最優等に位し、智力に富み、着實にして堅忍

なる、儉嗇にして勤勉なる、實に天下無比なり、然れども有爲高尚なる理想に乏しく、家あるを知りて國あるを知らず、安逸の中に死を待つも有事の際に命を捨つる能はず、徒に祖先の遺績を重じて眞に子孫の繁榮を謀らず、娛樂を熱望して止まらざるも苦境に沈淪するを厭はず、要するに古來の慣習を保守して進化發明せんとするの念慮なきが如し、而して此の種族は支那本部、滿洲の南部、并に內蒙古の一部に居住して其の數は三億五千万に近し、されば此の種族は陽に清朝即、滿洲人の壓抑を受くるが如きも實際は却りて帝國の主力を握り居れり

通古斯族は蒙古人種の一にして、滿洲種族の外、瓦爾喀、瑪溫、克爾、鄂魯、春、烏倫、達、胡、爾、牙、喀、爾、渾、等の諸種族を包含せり、其の性、概して驍勇にして、騎射を好み、古來より女眞、勃海、金、清、等の名稱の下に近隣の諸國を征服したり、然れども漁業と獵獸とに従事するの外、殆ど他の生業を營まざるが如し、此の種の人民は八旗兵と成りて支那本部に駐在するものあるも概して東三省に棲居し其

の數は一百萬餘に過ぎざるべし、蒙古族は喀爾喀、厄魯特、烏梁海、唐古特、等の種族に分るるものなるが、其の性、概して能く勞に堪へ、猜疑の念、少なく極めて貧朴なり、宗教は一般に喇嘛教にして、生業は主として游牧にあり、居住地は區域極めて廣大なれども乾燥に失する高原に非ざれば山間に閉塞せらる、高地なれば人口稀薄にして四百萬に達せざるべし、其の喀爾喀種族は内外の蒙古に居住して凡そ二百萬あり、其の厄魯特種族即ち加爾瑪克は準噶爾、和碩特等の總稱なるが、其の主要部新疆地方に居りて其の數は百萬に近し、其の唐古特種族は漢人の所謂四蕃にして、青海地方に棲居せるものなるが、其の數は六七十萬を越ゆるべし、而して西藏の住民も此の種族に屬すべしと云ふ説あり、其の烏梁海種族は容貌より云へばトルコ族に屬すれども、風俗言語習慣より觀れば恰、喀爾喀種族の如し、獵獸、牧畜、耕作に従事して大に他の種族に勝れる所あり、色楞格河の上流、古蘇庫爾湖畔等の山間の地に棲居するものなるが、其の數は二十萬内外なるべし、東干族はトルコ族より歸化せしものなりと稱す、容貌は全く漢人と異なり、蒙古人に類せず、身體肥大にして色白く髮黒し、顔

は長くして額高く、目黒く眉毛濃密にして眼角は下向せり、小耳、圓頰、鬚髮甚多し、言語風俗は漢人と交り蒙古人に接するを以て稍類似せる點なきにしもあらざるも辨髪するを好まず、勇壯の氣質を有し節儉力行を勤め、獨立心に富めり、宗教はマホメト教なれば漢人は此の種族を稱して回教徒と云ふ、其の數は甚多からざれども新疆甘肅地方より滿洲中部に散居せり、苗族は漢人の所謂化外の蠻民にして其の性極めて慍悍なり、西部諸省に屬する山間の地に棲居し、清國政府の權威を怖れず、掠奪殺戮を事として屢附近の漢人を苦ましむ。

言語。言語は種族に依りて差異の存すべきは、勿論なるが、漢族の言語は所謂單音語にして一聞單簡なるが如き感あるも實際に使用するに當りては極めて不便にして明瞭を缺けり而して漢族の多數なる國土の廣大なるとは言語に著しき異同を生じ遂に主要なるものゝみを擧ぐるも五十餘種あるを致せり、北京語は直隸、山東、山西、陝西等の地方に行はれ、南京語は江蘇、安徽、江西等の地方に通じ、湖廣語は湖南、湖北

の三省に用ひらる、獨り官話と稱するものは帝國內一般に通ずる普通語なれども官吏、文人、富裕者の如き、中等以上に位する人士にあらざれば、此の種言語を知らざるなり、又言語を代表する文字は所謂變體象形文字にして一見、利便あるが如しと雖、之を習得するには至大の困難あり。

滿洲語は東三省地方土族一般の言語なりしが多數の漢人の移住ありてより以來漸次に漢語を交へ今日にありては滿洲人中にも純粹の滿語を使用するもの至りて少なきが如し、蒙古語は漢語若しくは滿語に類するこゝなく自ら一派の語を爲すも蒙古族の棲居する地は廣袤甚大にして中央に戈壁沙漠を挾めるを以て地方に依りて多少の差異を生じたり即ち蒙古語を大別して蒙古本部語、博識的語、加爾瑪克語の三種を爲すなり。

教育。漢人は古來文字を好み學問に熱衷せし人民なるが保守的思

に行はるゝも、主として甘肅、陝西、直隸、山西の地方を以て盛なりとす、回教徒は其の數二千萬に過ぎざれども不穩の民にして屢亂を起し害毒を流すが故に清國政府の深く嫌忌する所たり、基督教は天主教、希臘教、并に數派の耶蘇教に分るゝものなるが、宣教師は各地にありて傳道に従事するを以て漸次隆昌に赴けり、信徒の數は天主教に百二十萬人、耶穌教に七八萬あるも希臘教は西北部に多少の信者を有するに過ぎず

風俗。漢人と滿人とは元來種族を異にするものなれば、言語を始めとし氣質、風俗等は勿論同じからざりしが、清朝の滿洲より起りて漢土を席卷し、滿洲人は權威を逞しうせしと雖、敗者の多數なる實際は勝者を壓倒して其の言語、風俗等を一變し遂に漢滿二種族の混同を來たし殆ど差異なきに至れり、衣服は官服、便服等總べて滿制を用ふ、男子は頭髮を辮して之を背に垂れ、女子は小足を貴びて歩行し能はざるに至るの

奇風あり、飲食は頗る發達して獸鳥魚菜の美味奇品を用ひ、調理は極めて精妙なり、然れども阿片を喫するの惡習あり、家屋は地方と貧富とに依りて差異あるも構造は瓦屋、木屋、土屋の三種にして親族の一家内に聚居團欒たるには頗る適せりとす、要するに滿漢人の衣食住は甚進歩して娛樂と利便とを兼有せる生活をなし、物質的開化は案外に發達せるが如し

蒙古人の衣服は漢滿人の衣服と大差なし、夏季には棉布、絹帛を用ひ、冬季には羊裘を用ふ、頭髮は男女とも一條に辮して背に垂れ、處女にありては二條に辮して左右に垂る、而して婦女は一般に耳環、指環、手釧等を穿つを喜ぶもの、如し、日常の飲食物は獸肉、麵粉、酥酪、磚茶、燒酎等にして魚鳥を用ひず、而して特記すべきは蒙古人の食料の多量なるの二事なり、住居は極めて單簡にして家屋を構造することなく帳幕の下に棲居せり

政體。清國は中華と自稱す、開闢以來屢革命ありて國名の如きも漢

と云ひ晋と云ひ唐、宋、元、明と唱へ實に枚舉に違わらず、當朝は滿人の愛親覺羅氏の世祖順治帝の創立に係り(我ガ正保元年西曆一六四四年)君主專政に依りて廣大なる國土を統治せり、政府は京官と外官とより成り、別に宗人、内務の二府を置きて皇族の法規と帝室の庶務とを監理せり、軍機處は軍國其の他、内外の機務を參決す、内閣は國政を管理す、六部衙門は國政を分掌す、其の吏部は職官の詮叙黜陟を掌り、其の戸部は土田、戶口、財穀の事を掌り、其の禮部は吉嘉軍賓凶の五禮を掌り、其の兵部は中外武職の事を掌り、其の刑部は法律刑名を掌り、其の工部は正虞器用を掌る事務、各國總理衙門は外交の事務を總理す、三法司あり、其の都察院は官常に察覈し、綱紀を整飾し、其の通政使司は章奏を達し、冤民の越訴を理り、其の大理事は重辟を平反し、刑事を肅立するを掌る、理藩院は内外蒙古、青海、蒙古、西藏等の政令刑賞を掌る、其の外翰林院ありて國史、國籍、制誥、文章等を

撰述編輯し、國史監ありて文武官を養成せり、次に外官の主要なるものを舉げんに第一を總督とす、一省若しくは數省より成る管轄地の民治軍務を節制す、巡撫は四民を撫養し、民治を督す、漕運總督は各省の漕運を掌り、河道總督は各省の河江修築の事を掌る、其の他鹽政は鹽事を司り、布政使は財賦の事を掌り、按察使は刑名を肅し、罪案を判す、又順天、奉天の二府に府尹を置き、其の各省の府州縣に知府、知州、知縣を置けり、而して新設の官衙には南洋、北洋の通商衙門あり、各開港場に道臺あり、行政區劃、漢土を十八省に分つ、一省若しくは數省に就きて總督を置き、各省に巡撫を置けり

漢	總督	所總督衙門所在地	省名	所巡撫衙門所在地
直隸	保定	天津(夏季)	直隸	

當するものなるが三省に於ける府、慶州、縣を管轄して民人の事を掌る。其の他、奉天府に戸、禮、兵、刑、工の五部衙門あり、新疆省は近來の新設に係る一省にして塔爾巴哈臺、伊犁、喀什噶爾の三部より成りて甘肅巡撫の兼轄に屬せり、蒙古並に西藏は理藩院の管理する所にして蒙古にありては旗毎に札薩克を置き酋長を以て之に充つ而して札薩克なきときは將軍、都統若しくは大臣、代りて事を司る、一旗又は數旗を合せたるものを部と稱し一部若しくは數部を盟とせり、西藏にありては土民をして自治せしむれども北京政府の派遣に係る駐在官をして監督の任を盡さしむ。

兵備。清國の兵備は至りて不完全なるも陸軍と海軍との設けありて疆土の防衛に備へたり、陸兵は八旗兵、綠旗兵の二種あり、其の八旗兵は滿人にして清朝創立の際に功ありしもの、子孫なり、其の數は二十

八萬以上に達するも、眞の兵力は凡そ九萬にして滿洲、直隸省、蒙古、新疆等の各要處に駐在せり、綠旗兵は漢人より成りて漢土の各地に駐屯せり、其の數は五十四萬と稱すれども戰時に於て多少の用を爲すべきものは勇兵九萬八千と練軍十六萬なりとす、而して直隸、江蘇の二省には特に洋式の練軍を置き、新式の銃砲を備へて防守を嚴にせり、東三省駐防八旗兵は其の數凡そ四萬にして之を三省に配置せり、然れども眞の戰鬥力を有する練軍は其の數凡そ一萬二三千に過ぎざるべし、蒙古兵は二百五十五旗より成り之を内外蒙古百九十八旗、内屬游牧部五十五旗、回部二旗に分ち總兵員十一萬と稱せり、新疆省には凡そ三萬の兵勇あれども其の中にて訓練を受けたるものは八千餘に過ぎず、又西藏は六萬四千の兵勇を有すれども實力あるものは一萬餘なるべし、要するに清國陸軍の總員は一百萬以上に達するも實際に於て多少戰鬥に堪ゆるも

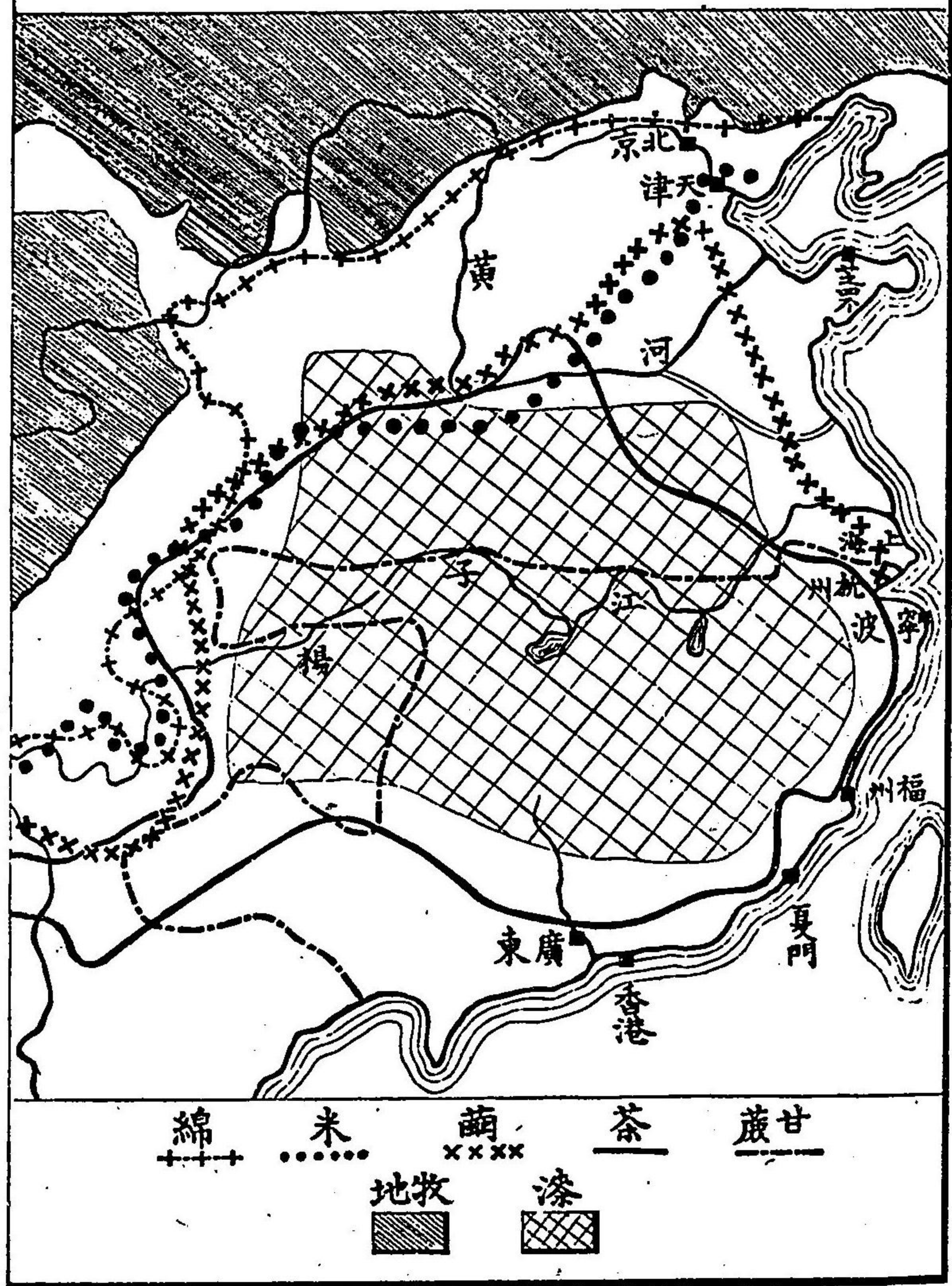
の三十五萬を超へざるべし、海軍は四個の艦隊より成れり、其の北洋艦隊は直隸總督の配下にありて渤海の守衛に任じ、其の南洋艦隊は兩江總督の配下にありて揚子江近海の防禦に當り、其の福建艦隊は閩浙總督の管轄に屬し、其の廣東艦隊は兩廣總督の管轄に屬せり、海岸の防備として各要處に砲臺の築造あるが、就中渤海の咽喉に於ける旅順口、大連灣、威海衛并に直隸の太沽、福州の馬尾等を以て最堅牢なる砲臺の所在地なりとす、造船廠は三ヶ處にあり、其の馬尾船政局は福州に設置せられ、規模稍大にして清國第一の造船所なりと稱す、其の江南造船廠は上海の近傍にあり、其の黃埔造船廠は廣東にあり、又兵器の製造は北京、天津、保定、濟南、上海、杭州、廣東、南京、安慶、雲南、成都等の各地に於てするも規模の稍大にして製作力の顯著なるは上海の江南機器局、天津の兵器局、南京の機器局、廣東の兵器局なりとす。

財政 清國は邦土の廣大なると人口の饒多なるとに拘らず、税源は至りて乏しく、歳入は比較的僅少なり、其の額は勿論確言し難きも、海關銀にて凡そ七千八百五十萬兩(我々一千萬圓)に過ぎずと云ふ、而して税源の主要なるものは地租、厘金、海關稅、鴉片稅、鹽稅等なりとす、又國債は從來其の額甚大ならずして外國債の一千三百五十萬兩と内國債の三千萬兩とのみなりしが、赤間關條約に依り日本國に拂ふべき軍費賠償に充つる爲に募集せし金額を合すれば三億兩以上に達すべし、因に記す、支那各地に行はるゝ通貨に三種あり、銅錢は官設の造幣局に於て鑄造し各地一般に通用す、又私錢と稱し民間の鑄造に係るものあれば通用は一地方に限れるが如し、銀兩は一般に通用するも元來民間の私鑄の製出するものなれば重量形狀ともに一定せず、一種の貴重貨物たるに過ぎずして實際上極めて不便なり、洋銀即外國銀貨は開

港場附近の地に於て通用するのみ
 生業。清國は創立以來三千餘年を経過したる舊邦にして夙に開明の域に進み百般の業務に就きては大に見るべきものありしなるべしと雖、徒に往昔の遺法を固守して更に新意改良を加ふることを務めざりしを以て遂に今日の如き不振を來たせり、然れども國內には各處に肥地沃土あり住民は饒多にして能、勤むるの風を有せり、是此の國に於て往古の盛況を目撃し得ざるも尙、多少の留意を促がすものある所以なり、漁業は古來行はるゝものなるも此の國が比較上、魚類に乏じきと漁法の極めて拙劣なるに依りて著しき生産力を有する能はず、而して本業の稍、盛なるは福建、廣東、浙江、江蘇等にして魚翅、海參、鮑、蜆等の外に尙、數種の貝類を興ふ、牧業は清國の生業としては重要なるもの、一なり、豚は其の飼養極めて盛にして至る所、豚肉を用ふるが如し、馬に

は二種あり、其の張家口、直隸、并に殺虎口(山西)の地方に産するを口馬と稱じ、四川省地方に産するを川馬と云ふ、而して産地の主要なるは漢土の北部と西部とにして、滿洲、蒙古も亦良馬を産せり、羊には四種あり、其の綿羊、山羊は蒙古と漢土の北部とに産じ、其の中古羊、羚羊は蒙古に産す、牛には黄牛、水牛の二種ありて各地に産するも農獸として力役に使用するに止まりて、食用に供すること少なし、而して黄牛は蒙古と北支那とに産し、水牛は漢土の南部に産せり、其の他に陝西、甘肅、直隸、河南、四川に驢馬の産あり、北支那に騾馬の産あり、又蒙古は殊に駱駝を産せり、家禽の飼養も盛ならざるに非ざるが就中、鶏は各地に産するが如し、林業は濫伐の餘弊を受けて大に衰頽せり、現時にありて森林の多き地方は廣西、湖南を始めとし、北西の諸省、蒙古の東部、滿洲の北部なりとす、松、柏、杉、柳、梧桐、梔、梨、楠、柚等の木材を興へ、又藥品としては樟腦、桂

清 國 重 要 農 產 區 域



皮等を興業、鑛業は未だ盛なるに至らざるも頗有望の業なりとす、金は雲南、瀋洲等に産し、銀は雲南、兩廣、四川等に産し、鐵は山西、福建、廣東、雲南等に多少の産あり、其の他に銅、鉛、錫、水銀等の産あるも其の量甚多からざるが如し、而して石炭は各省に産するも目下採掘せらるゝは開平、唐山、林西等の炭坑なりとす、農業は清國人が生業中にて最得意とする所なれども培養に宜しきを得ざるもの多く、農具も亦甚便ならざるが如し、米は南部諸省の水田に産し、麥は北部各省の乾田に生ず、高粱は四川の名産にして、豆類は各地に多少の産あるも、瀋洲の奉天省地方を最とす、棉花は中部の各地に産するも、江蘇、湖北の地方は良種を興ふ、蔗は瀋洲、兩湖、四川地方より出づ、蠶絲は各地に多少の産あるも、就中、江蘇、浙江、廣東、四川、湖北は佳種を産し、山東、湖南のもの之に次ぐ、茶には紅茶、綠茶、磚茶、茶末等の數種あるが産地は漢土の南部と東部とにして、就中、浙

江、安徽、福建の地方を最盛なりとす。砂糖には白糖、赤糖、冰糖の三種ありて、兩廣、江西、福建等の地方に産す。人参は有名の藥品なるが、滿洲地方に良種を産す。鴉片、即ち洋烟は身命を蝕害するの毒烟たるにも拘らず、近來は各地に其の産を見るに至れり。楮は浙江、貴州、四川等に産す。此の外、南支那に蘭草の産あり、四川に白蠟の産あり、陝西に黃蠟の産あり。又果樹には橙、柑、甘蕉、龍眼、棗、梨等ありて、産地は廣東、福建等なりとす。工藝は甚盛なるに非ざるも、亦多少の製作品は各地に産す。特に江蘇、浙江、廣東の地方は最盛なり。絹布の産地は江蘇省の震澤縣、蘇州、大儀鎮、并に浙江省の湖州府、杭州府、紹興府、寧波府等を以て主要なるものとす。而して種類は縞子、縮緬、紗、羅等を多しとす。又繭綢は山東省の名産たり。紫花布は江蘇、湖北、浙江、福建、廣東の各地に産す。紙類は兩湖、江西、四川の各處に産す。磁器は江西の景德鎮より出で、瓦器は江蘇、廣東、福建等の各省に

産す漆器は蘇州福州廣州等の各地に産す角器骨器は江蘇廣東に産し
藤器は廣東の特産なり銅器は江蘇福建廣東に産し錫器は汕頭より出
で銀器は廣東の名産なり皮槓は江蘇廣東に産し地蓆は廣東省の東莞
縣蓮塘縣羅定州に於て製作せらる土錠は廣東府墨は徽州府の特産な
り廣東の鹽饒浙江の紹興酒は著名の産物なり扇子は江蘇浙江廣東の
各地に産す清國の内部に於ける商業の情況は記するに由なしと雖、貿
易は漸次に隆盛に趣くものゝ如し、

年 次 西 曆 輸 入 輸 出 輸 入 全 計

明治二十四年	一八九一	一、二〇〇、〇三六	一、〇〇九、〇七九	一、二〇九、一一五
同 二十五年	一八九二	一、三三〇、〇一八	一、〇三三、〇三三	一、三六三、〇五三
同 二十六年	一八九三	一、五二六、二八九	一、一六六、三三三	一、六九二、六二二
同 二十七年	一八九四	一、六三〇、九一一	一、二八〇、〇三三	一、九一〇、九四四

本表に記入せる數は清國貿易の全體を表出せず蓋し海關の管理に拘ら
ざる船舶にて百貨の輸出入に従事するものあればなり而して輸入品
の主なるものは鴉片綿布綿米砂糖等にして輸出品の主なるものは
生絲茶等なり従ひて此等の物品を飲食品原料品製作品の三種に分ち
て百分比例を作れば

品 種	輸 入	輸 出
飲 食 品	四二、五	三、五
原 料 品	一三、四	一、八
製 作 品	四三、九	二八、二

交通。清國の交通上の發達は概して不充分なるも地方に依りて大
に其の趣を異にせり東部の沿岸の地并に長江一帯の地にありては水
運の便あるも北部の臺地并に西部の山地にありては水脈に乏しうし
て勢車馬の力を借らざるを得ず是れ俗に南船北馬と稱する所以なり、

十八省を始めとし滿洲蒙古の邊陲に至るまで道路の通せざるなく、省城所在地は勿論各地の間を連絡せり、然れども其の建造は不完全にして修繕は不整備なれば車馬の往來、旅人の通行には極めて不便なるが、殊に夏季を以て然りとす、鐵路の發達は遅々として觀るに足るものなきも北支那にありて太沽を起點とする二線あり、其の一は天津に達し、其の二は開平を経て山海關に達せり而して恆部の長江の畔にも鐵道の敷設ありて黃州附近より産する石炭の運搬に従事せり、又此の國は東に海を控へるのみならず大河巨流に富めると航行し得べき沼湖の少からざるが故に地方に依りては水運大に發達せる處あり、特に大江の流域に當れる江蘇、安徽、江西等の地方を以て然りとす、加ふるに有名の運河の存するありて本支を合すれば六百餘里に達すと云ふ、海路は漢土の沿岸の要港を連絡するに止まり汽船會社の如きも唯一

の官設に係る招商局の存するあるのみ、其の航路は上海より揚子江畔の宜昌に至り南は寧波、廈門、福州、温州、汕頭等を経て廣東に通じ北は芝罘、天津、牛莊より朝鮮の仁川に達するに過ぎず、然れども古式の構造に係る帆船即ち蓬船は其の數極めて多くして各地の間を往來せり、驛站即ち官設郵便は兵部の所轄にして專ら官信の遞送を司れり、各省要衝の地に局を設く、其の數は二千四十箇所ありて、之が爲に毎歲凡そ二百萬兩を費すと云ふ、其の他に私設に係る幾多の信局、飛脚、票號ありて公用以外の信書を發送するを以て營業とせり、又各開港場には工部局郵便ありて公私の信書を遞送すと云ふ、其の他十八省の各處に漕運局なるものありて各種の公用貨物を輸送するを司る、其の數は凡そ八千に達せり、電信は中央局を上海に設け、北には東三省線、蘭州線あり、西には成都線、雲南線あり、南には廣東線、東京線あり。

處誌 京師、順天府、即北京（北緯三十九度四十分）は皇城の所在地にして清國の帝都たり、人口は五十萬に過ぎずと云ひ或は百六十五萬ありと稱するも確數を知る能はず、帝居を大内又は紫禁城と稱す、幾多の宮殿あり、繞らすに城壁を以てし四面に各一門を設く、大内の外を皇城と云ふ、大小六門を設く、城内に大廟あり、社稷壇あり、先蠶壇あり、皇城を包むを内城とす、九門の設けあり、内には數多の官衙公署あり、訂盟諸國の公使館あり、又は旗兵の駐在するあり、内城の南に外城あり、七門を設く、市街の地なり、商估は軒を列ねて百貨を賣買す、殊に繁華なるは正陽大街、鼓樓大街とす、府の近郊に南苑、暢春園、圓明園あり、萬壽山あり、昆明湖あり、共に名勝の地として稱せらる、天津（九五、〇〇〇）は直隸省城の地にして北支那最要の通商港とす、百貨輻湊の地にして極めて殷賑なり、然れども冬季は氷結して航路の絶ゆること三ヶ月に及ぶ、紫竹林は外人の居留地

にして又我が領事館の所在地なり、此の港は主として荳餅油、穀物等を輸出す、太沽に砲臺あり、開平に炭山あり、張家口（一六、〇〇〇）は通商の地なり、ロシアに向ひて磚茶を輸出し、各種の生毛を輸入す、（以上）芝罘（三、〇〇〇）は一に烟臺と稱す、貿易港の一にして風景の絶勝なると船舶を碇繋するに便なる良港を有するを以て名あり、繭綢、草帽紐を産す、我が領事館の所在地なり、威海衛は軍港として有名なり、（以上）江寧府（五〇、〇〇〇）は一に南京と云ふ、吳の建業にして朋の應天府なり、文華風流、清國第一と稱す、有名なる大報恩寺の磚塔は太平王の亂に焚毀せられたり、蘇州府は吳王の舊都にして絹布を産す、新開四港の一なり、（以上）上海（四〇、〇〇〇）は蘇州江と黃浦江との相會する處にあり、舊は一小縣地に過ぎざりしが通商の地と成りしより以來、百貨輻輳して繁昌を極む、殊に鴉片、棉布を輸入し、絹絲、製茶を輸出す、實に清國第一の貿易港たり、居留地は英租界

佛租界、米租界の三區に分たれ、人口増殖して日に月に旺盛に趣けり、我が國の領事館は米租界にあり、近傍に江南機器局あり、鎮江(一四〇〇〇〇)は大江の南岸にあり、貿易港の一たり、絹布を製出す、以上蕪湖(八〇〇〇〇)は大江に瀕する河港にして通商埠頭の一なり、盛に米を輸出す、徽州府は墨の産地なり、以上景德鎮は磁器の産地なり、九江(五三〇〇〇)は揚子江の南岸に於ける河港なり、盛に茶葉、陶器を輸出す、以上福州(二〇〇、〇〇〇)は閩江に瀕せる河港なり、省城の地にして通商港の一なり、茶、紙、木材を輸出す、尾港は外國船舶の碇繋場たり、廈門(九六〇〇〇)は一名を鷺島と云ふ、周圍六里あり、水深七八海にして船舶の停泊に便なり、貿易港の一にして茶、砂糖、紙等を輸出す、以上杭州府は省城の地なり、新開四港の一たり、寧波(二五、五〇〇〇)は一名を四明と云ふ、甬江に臨む河港なるが水深は二海に過ぎず、貿易港の一として茶、棉花、生糸等を輸出す、紹興府に酒の産あり、温

州(八、〇〇〇〇)は貿易港の一なるが茶、甌、柑、木材等を輸出す、以上漢口は漢水と長江との相會する處にありて江口を距ること五百八哩なり、交通上の要衝に當り支那内地貿易の一大中心たり、西曆一千八百六十一年以來、通商碼頭となりて盛に製茶を輸出せり、宜昌(三四〇〇〇)は漢口を距ること三百六十三哩の河上にありて貿易河港の一たり、沙市は荊州府内にあり、新開四港の一たり、以上重慶(二一、〇〇〇〇)は嘉陵江と大江との相會する處にあり、上海より航行一千五百哩にして此の地に達す、農産饒多にして庶民殷富なる地方の中心なれば工藝も亦多少發達せるが如し、且又水運の便あるを以て百貨の集散に適するが故に通商碼頭としては頗る有望の地とす、以上廣州府(二五〇、〇〇〇)は一に廣東と稱す、省城の所在地なるのみならず、最舊の開港場なれば商業は勿論、各種の工藝も盛にして極めて繁昌の地なり、實に清國第一の大都會たるに恥ぢず、海岸

を距ること三十五哩なるも東江、北江の二水の貫流するありて大船巨
 舶も容易に出入するを得るが故に百貨の集散も頗る盛にして清國屈指
 の碼頭たり而して此の港より輸出する物品の主要なるものは生絲、絹
 布、砂糖、蘭蓆、陶器、蜜餞等なりとす九龍は香港と相對するの地にありて
 多少の物品を交易せり汕頭(三、五〇〇〇)は通商碼頭の一にして砂糖、錫器、
 海産物を輸出せり、北海(二、五〇〇〇)は寂寥たる一碼頭に過ぎざるも亦有
 望の地ならざるにあらす瓊州(四、一〇〇〇)は海南島にあり、其の附庸港を
 港口と云ふ、通商碼頭の一なり以上廣東龍州(三、〇〇〇)は東京に接する邊陲
 の要區なり、陸路貿易の地として撰定せられたるも末盛なるに至らず
 以上廣西蒙自(二、二〇〇〇)は盤江の上流に瀕する河港にして陸路貿易の地な
 り以上雲南奉天府(一八、〇〇〇)は一に盛京と云ひ省城の地なり、清朝の舊都にして
 奉天府(一八、〇〇〇)は一に盛京と云ひ省城の地なり、清朝の舊都にして

滿洲第一の都會なり、内城は方形にして宮殿、官衙等を圍繞し、外郭は長、
 一里半餘の方形にして全府を包む、市街は城内にありては四條の大街
 を爲し、城外にあるものは外關市街と名づく、街衢は稍清潔にして獸皮、
 穀類等を賣買す、繁華の地とす旅順口は清國屈指の軍港なり、二十七八
 年の役、我が軍の占領せし所なり、金州(三、〇〇〇)は碼頭を大連灣に控へ
 商業稍昌なり、花園口は明治二十七八年の役、我が軍の上陸せし地なり
 大孤山は木材の輸出を以て有名なり、皮子窩も一の商港たり、岫巖(三、〇
 〇〇)は大理石を産す、地方の名區たり、蓋平は日清兩軍激戦の地なり、海
 城は我が軍が數度の勝戦を爲せし處なり、田庄臺は我が軍の大捷を得
 たる處なり、營口(六、〇〇〇)は俗に牛莊と稱す、通商碼頭の一にして商業
 繁榮し、頗る有望の地とす、明治二十七八年の役、我が軍の爲に占領せられ
 たる處なり、興京は清朝創業の地なり、錦州(五、〇〇〇)は交通上の要區た

り繁華の地とす以上吉林府(八、〇〇〇)は省城の地にして交通上の要
 區たり商業も亦繁昌なり齊古塔(三、〇〇〇)は四達の地にして交通上の
 要衝たり琿春城は圖門江の左岸にありロシアと朝鮮とに對する邊防
 の地なり三姓は松花江と瑚爾洽河との相合ふ處にあり拉林(五、〇〇〇)
 は本省内に於ける最大市場なり齊々喀爾(五、〇〇〇)は省城の地なり嫩
 江を控へ道路は四方に通ず百貨輻輳して商業盛なり呼蘭、巴顏、蘇、墨爾
 根の各地に城あり旗兵を駐屯せしむ愛輝城即ち黒龍江城は黒龍江の右
 岸にあり呼倫、具爾城は呼倫池の近傍にあり共に邊防に備ふ
 買賣城は清國とロシアとの界にある陸路貿易場たり庫倫(三、〇〇〇)
 は蒙古の最大都會たり交通の要衝に當り陸路貿易の地にして商業
 旺盛なり烏里雅蘇臺は定邊將軍の駐在地たり科布多も亦戍衛の地な
 り以上蒙古多倫諾爾は一に喇嘛廟と名づく蒙古人の來住頻繁なるを以て

市街は般賑なり以上蒙古

喀什噶爾(五、〇〇〇)は海拔一千三百八十三米突の地にあり葉爾漢

(六、〇〇〇)は海拔一千三百三十六米突の地にありて數多の回教寺院を
 有せり和蘭は四万餘の人口を有すと云ふ以上新疆

拉薩は雅爾藏布河の左岸に於ける一支流に瀕し海拔三千五百六十

六米突の高地にあるも西藏の首府なれば人口は三萬以上に達せり喇
 嘛教の法王とも稱すべき達來喇嘛は此の地に居住せるが故に僧侶の
 數極めて多く市街は殆ど宮殿と寺院とを以て充たさる、ザガルシ又は
 シガツニは海拔三千六百二十一米突の高地に於ける一都會なるが人口
 は凡そ三萬ありと云ふ、トクヤルンは海拔四千九百八十米突の高地にあ
 る一村落なるが金を産せり、蓋し此の地は人類の定住處中の最高なるも
 のなるべし以上西藏

◎香港

香港島は舊清國の領土たりしが一千八百四十二年の鴉片事件以後イギリスの屬地と成れり面積は對岸の地を合するも七十九方杆に過ぎず島内丘陵多く平坦の地に乏しく地味は礫角にして樹木は甚少なし氣候は温暖なるも亦健康を害ふに至らず、ピクトリア市を建設して自由貿易を許せしより爾來長足の進歩を爲し人口は既に二十四萬に達せり船舶の出入一十餘萬噸頻繁にして百貨は盛に輻湊し市街は熱鬧を極む實に東洋屈指の貿易港たり此の地は支那艦隊の根據地なれば三千人餘の陸兵を置きて防備を嚴にせり行政長官を知事と云ひ行政部と立法部との轉佐に依りて各般の政務を處斷せり

◎澳門

澳門(碼港)は往昔本邦人の天川と稱せし地なり香港の南珠江の河口

に於ける十二方杆の一小島にして六萬七千の人口を有するものなるがホルトガルに屬せり往古は繁華の地なりしも香港の開けしより頗るに勢力を失ひ貿易高の如きも四五千のミルレイヌに過ぎざるべし

◎印度支那

境域 印度支那はアシアの南東に於ける一大半島なるが二ツの部分より成れり其の一は北方にある卵形の一大土塊にして北西より南東に走り其の二は卵形部の南西より發して狹長なる半島を形成し殆ど赤道に達せんとせり而して此の地方の四極を擧ぐれば極北は北緯二十七度十五分極南はマラッカ半島の南端ロマニア岬の北緯一度三十分なり又極西はブラマプトラ河畔の九十度五十分にありて極東は安南の南東パレナ岬の百九度四十五分にあり又北は雲南及西藏の山脈並にブラマプトラ河を以て清國と印度とに接し東と南東とは南支那海

を控へ西と南西とはベンガル灣、印度洋に瀕せり

海部 南支那海即ち南海は多少陸地内に侵入して東京灣アラマヌ灣暹羅灣等を爲すも、印度洋はベンガル灣、マルクバン灣を爲すに過ぎず、而して此等の二海を連絡するはマラッカ海峽なり

陸部 半島には顯著なるマレー半島あり、クラアの地峽を以て大陸に連なる地角にはバレー岬、サンジャク岬、カンボギア岬、リアン岬、ロマニア岬、チグレ岬あり、島嶼には東京の諸島、プロコンドル島、カンボギア諸島、トントラン島、シンガポール島、プロピナン島、サラン島、メルモ一群島、アンダマン列島、ニコバル列島あり

海岸 大河の下流に於て三角洲を爲せる沖積地を除くの外、海岸は概岩礁に富みて懸崖絶壁ならざる處少なく、延長は六千軒に達せり

山誌 印度支那半島の地貌を案するに、北西より南東に走れる數派

の江河は並行谷地の間を流れ、之を挟む山脈は概二千米突以下なるにも拘らず、或は森林の繁茂するあるに因るか、或は氣候に激變あるに因るか、人類の繁殖には意外の障害たりしもの、如し、されば本半島の拓地殖民を企圖せるものは印度人、支那人なるとフランス人、イギリス人なるものに拘はらず、何れも河流を溯りたり、現に人口蕃殖して拓地の業を進めるはソンコイ、眉公河、溟南河、イラウアチ河等の河口、下流の地に限り、交趾山脈は紅河を始めとし、南支那海沿岸の諸流と眉公河との分水線たり、カオドンレック其の他、二三の山彙は眉公河と溟南河との流域を分てり、タテンギイ山脈は二千米突に達すること稀なるも南走してマラッカ半島の骨髓と成る、而してクラア河とチャボン河との水源が相接して一の低處を爲せるが、支那海と印度海とを連絡すべき一大運河を開掘するに適すと云ふ、シャンヨマ山脈はサルウエン河とイラウアチ河と

の流域を分ちて、最高點は三千一百九十四米突に達す、南走してマラッカ半島に入るペグーヨマ山脈は最高六百米突に過ぎざる一小山脈なり、アラカンヨマ山脈は最高處に於て二千一百六十四米突に達し、アラカン海岸の細流とイラウアチ河との分水線を爲しチグレ岬に至りて海に没し、再び顯はれてアンダマン、ニコバルの二列島を爲せり

水誌。ソンコイ河即ち紅河は水源を雲南地方に發し、數多の支流を容れたる後、ソンタイに於て數派に分れ、一の三角洲を爲して海に注ぐ、眉公河は本半島第一の巨流にして水源を圖伯特に發して上流を瀾滄江と稱す、中流にありては激湍奔流の存するが爲に航行し難きも、コン瀑布より河口までは佳良の航路たり、南旺附近に於てチエンギアン、バツサクの二派に分る、而して數多の細流は此の二支流に合して下交趾の低地を潤せり、溟南河はメピン河を容れ、暹羅を貫流し、舞谷府を経て海に注

ぐ、サルウェン河は源を西藏に發し、上流をルキヤンと號し、南走してマウルメイン附近に於て海に入るイラウアチ河の水源は未詳なるが、プロムに至りて二派に分れ、東派を本流とし、西派をバツセイ河と稱す、而して本流も再び數多の分派を生じ、一大三角洲を抱きて海に入る。沼湖も其の廣袤の大ならざるものは各處に存在すれども、著大なるものは眉公河畔に於けるトンレサップ湖なりとす

氣候。氣候は熱帶的にして印度に於けるが如く、季候風の方向に因りて一年を二季に分てり、南西風は五月より九月まで吹きて、濕候を生じ、九月より三月までの北東風は乾候を生ず、而して風向を變ずるの際は、溫度の甚しく上昇するを覺ゆ、要するに本半島は概して高温を呈するも、南部にありては寒暑の差、少なし、例へば柴棍の平均氣温は二十七度強にして、最高最底の差は僅に二度八分あるに過ぎず、北部にありて

は寒暑の差稍著しく河内の平均は二十四度なるも最高は三十五度にして最低は七度に降ることあり内部にありては氣温稍低くして屢五六度の低温を観ることありと云ふ雨量は多きも其の配布は一樣ならず西部は最多量の雨水を受けアラカン地方は三米突なるもアラカンヨマの西斜面は六米突以上を受ることあり而して其の東斜面は一米突半に過ぎず又マラッカ半島の西岸は雨量多くプロビナン島は八米突の降雨を観ると稀ならず盤谷府の雨量は一四九にして柴棍府の雨量は一七四なり而して眉公河と紅河との分水山脈に於けるも西斜面は東斜面より多くの降雨あり

天産 動物并に植物は支那に類するあり印度に似たるあり然れども之を細別すれば東京交趾は支那的にして柬埔寨暹羅にありては支那的と印度的と混同するを観るも緬甸地方にありては印度的なり而

してマラッカ半島に於てはマレー群島固有の種類多きが如し要するに印度支那の森林は藁木、紫檀、黒檀、テック、アカシアの類に富み動物には象、豺、虎、野牛等を以て最著しきものとす又本半島の山脈は鐵、鉛、銅、錫、銀、金等の鑛産に豊かなるがマラッカ半島の錫、緬甸の玉類、東京の石炭、アラカンヨマの石油を以て稍著しきものとす

人種 印度支那の住民は數多の種族より成れるも之を五群に大別するを得べし其の第一群は安南人、スアイス人(暹人、暹羅人、老)等より成りて元來支那種族なるも多少の變差を生じ緬甸人殊にアラカン人は著しく印度種族の混淆を受けたり其の第二群はクメル人即ち柬埔寨人にして甚しく印度的感化を受けたり其の第三群は蕃民にして交趾にありてはモイ、ミオンと云ひ緬甸にありてはカキエンと云ふ其の第四群はオランダ種族にしてマレー半島の蕃民なり其の第五群をマレー人

とす、此の外支那人殊に清國南部の廣東、福州地方の人は本半島に來住して東京、安南、交趾、暹羅、シンガポール、等の各市街地に定居せり

◎ フランス領

フランス領印度支那は印度支那半島の東部にありてS字形を有せり、北は雲南、廣西に接し、東南は支那海を帶ひ、西は暹羅、緬甸と境を交ふ、面積は凡そ七十萬方秆あるも土地の肥瘠は一様ならず、東京、交趾支那、東埔寨には佳良の平野少なからざれども安南には地味の礮角なる處多しとす

人口は二千二百七十萬なれば一方秆に付三十二人と成る、東京、安南、交趾支那の居住者は互に相似たるものなるが共に支那種族に屬するが如し、而して東埔寨のクメル人は別に一種族を爲せり、居民は軀幹矮小にして容姿醜惡なり、其の性自負驕慢にして敢爲の氣に乏しく時に

快言壯語を放つも其の實卑屈怯懦の心を蔽ふに過ぎず、徒に舊習を慕ひて國を愛するの情切ならず、外人の配下にありて安逸を貪るも亦故なきに非ず、多數の國民は祖先を祀り、英傑の士を敬ふこと恰、神佛に事ふるが如くす、中流以上の人士には孔孟の教を尊信するもの多く普通の人民中には佛教を奉するもの亦少からず、而して三十萬の天主教信者は各開市場の附近に散在せり

本領地は東京、安南、交趾支那、東埔寨の四部より成るが共に印度支那總督の配下にあり、施政上、本國殖民省の管理に屬するも各部は自治制に基づきて財政を異にせり、總督は東京の河内にありて本國殖民省の監督と印度支那高等會議の輔佐とに依りて全領地の行政を司れり、兵備は陸軍に歩兵三聯隊、安南兵一聯隊、東京兵三聯隊、其の他、數大隊の雜兵あり、又別に憲兵の一隊を置く、海軍は絶東艦隊の兼管に屬す

東京は三十一萬方杆の面積と一千四百萬の人口とを有するものなるが一千八百八十三年以來フランスの殖民地と成りたり、此の地は古の交趾の地にして高平、諒山、廣安、平寧、宣光、太原、北寧、海東、興安、河内、南定、山西、寧平、清華、河靖、又安の十六州に分たる安南王國は二十三萬方杆の面積を有するも人口は六百萬に過ぎず、一千八百八十四年以來フランスの保護の下にあり、而して國王は順化府に都す、此の地は古の占國にして廣平、廣治、廣德(順化)、廣南(アツラ)、廣義、平定、富安、衙莊、平順の九州より成れり、交趾支那は五萬五千方杆の面積を有し凡そ十八萬の人口を有す、一千八百六十七年以來フランスの殖民地と成りたるが分ちて十九區となせり、副總督は柴棍にありて本殖民地の行政を司る、柬埔寨王國は十萬方杆の國にして八十一萬の人口を有せり、一千八百六十三年以來フランス國の保護の下に置かれたり、國王は南旺に都しフランス政府は

此處に駐在官を置く

生業に就きて一言せんに、農業は稍盛にして、米、砂糖を産す、牧業は牛類を養ひ、漁業は近海の雜魚を捕ふ、林業は木材を給す、而して工藝は極めて不振なるも團扇、漆器、彫刻物、家具等の二三の工藝品を供呈せざるに非ず、貿易は漸に發達するもの、如く而して貿易品は米、魚類、胡椒等を輸出して、織布、鐵器、鴉片、酒、茶等を輸入するにあり

部 名	輸 入	輸 出	全 計
東 京	二九八〇、五五八一	一四九九、六二九五	四四〇、八〇一八七六
安 南	一三二七、一三七五	一四八七、一九三五	二八〇四、三三一〇
交趾支那、柬埔寨	三六六九、五四五九	八七五五、〇八八〇	一二四三四、六三三九

鐵道は七十一杆ありて柴棍とミトーの間を連絡せり、船舶の出入は百五十萬噸なるが漸次に頻繁ならんとするもの、如し郵便は百四十

一局ありて電便線は二千五百軒に達せり。

河内(八、〇〇〇)は古の交都にして今の總督府の所在地なり、紅河に瀕し要衝の地にあり、海防はサイピンの河口にありて一の商港を有せり、諒山は激戦のありし地なり、ホンゲー、ケバオは石炭を産す(以上)順化府(三、〇〇〇)は王都なり、廣南港即チラーヌ港は石炭を産す、平定(二、五〇〇)は繁華の地なり(以上)柴棍(三、〇〇〇)は交趾支那の首府にしてドンナイはに瀕し貿易港の一なり、ミトーは繁華の地なり(以上)交趾支那(三、〇〇〇)は王都なり(以上)東埔寮

◎ 暹羅

暹羅國即チシアンスアイは印度支那半島中唯一の獨立國にしてサイ部とマレー半島の一部とより成れり、其のサイ部は東并に南東にフランス領の東京、安南、東埔寮を控へ、北并に西はイギリス領の緬甸に隣り、南

は暹羅灣に臨めり、其のマレー半島に於ける部分は東西に支那海と印度洋とを控へ、南はイギリス領のマラカに接する狭長の地なり、面積は六十三万三千方軒なれば我が帝國の一倍半に當れり、然れども國土の大半は荒蕪の地にして稍、拓殖せられたるは溟南の河畔と其の河口に於ける沖積洲とのみなり、土壤肥腴にして氣候温暖なれば頗る稼穡に適するも民住の怠慢無氣力なる現時の耕地は全國の二十分一だにも達せざるが如し

人口は五百万と稱すれども之を種族に依りて區分すれば暹羅人二百万、支那人百三十万、老撾人七十万、マレー人五十万、東埔寮人三十万にして自餘の住民は緬甸人と掌部の蕃民とに小數のヨーロッパ人なり而して支那人の來住するものは毎歲二三万に達すと云ふ、暹羅人、老撾人の言語は共に單音にして甚だ相似たり、又住民は概して佛教を奉せり

專政王國にしてスナボヂ即ち内閣は外務、内務、大藏、司法、工務、教育、農商の諸省より成り、別に樞密院、參事院を設く、兵備は三千の陸兵と十四隻の砲艦とを有するに過ぎず、而して歳入は凡そ二千万圓なり。農業は米を産み、森林はテックを生ず、漁業は稍盛にして、牧業は牛と象とを與ふ、貿易は凡そ五千二百万圓にして、米、魚類、牛、胡椒等を輸出せり。三百軒の鐵路を有するも、航路は全くエウロッパ人の掌中にあり、電信線は四千軒に達し、又郵便の設けあり。

バンコク即ち盤谷(三〇、〇〇〇)は一名をサナグリと云ふ、王國の首府にして、溟南河の畔にあり、商業稍旺盛なるも、住民の半は支那人なり、アエシアは溟南河の岸にあり、往昔は繁華の地なりしが、現時は一小都會たるに過ぎず、アングコルの舊址はトンレサプ湖の近傍にあり、柬埔寨人の國都たりし地なり。

◎ イギリス領

本領地は海峽殖民地、マレー保護地、緬甸部、アンダマン、ニコバルの二列島等より成れり、其の海峽殖民地、マレー保護地はマレー半島の南半に當り、其の緬甸部は北に西藏、雲南と境を接し、東に東京、暹羅を控へ、南西にベンガル海を受け、北西にブラマプトラ河を挾みて、印度に連れり、アンダマン、ニコバルの二列島は印度洋の北東に位せり。

海峽殖民地はシンガポール島、プロビナン島並にマレー半島に於けるエレスレイ州、マラッカ州より成れり、面積は三千九百九十八方軒あり、て人口は凡そ三十六萬あり、シンガポール島はスマトラ島とマラッカ半島との間に於ける海峽の南端にありて、一の良港を有せり、市街は僅に六十年以前の創設に係るが、氣候の炎熱なるにも拘らず、健康に適するを以て長足の進歩を爲し、遂に今日の盛況を觀るに至れり、日本、清國、印度、

エッロッパ等に關する貿易場たる本市には人口十四萬二千余あれども七萬のマレー人と七萬の支那人との居住するありてイギリス人、ホルトガル人の如きは甚だ少なし、此の地に海峽殖民地太守の政廳あり、其の他各國の領事館あり、本邦も亦此の地に領事館を設く、マラッカ州は五萬の人口を有す、舊、ホルトガルに屬せしが一度オランダ領と成りたる後、イギリスの版圖に歸したり、マラッカ港は往時にありては有名の地なりしが現時は商業不振の一小港にして衰微を極め居れり、プーロピナン島に有名なる天主教校あり、東部アシアの傳道師を養成す、マレー保護地は八萬六千方杆の面積と三十余萬の人口とを有し、ペラック、セレンゴル、ジョホル等の部落より成れり、本地は近年イギリス國の保護の下に置かれたるものなるがマレー人の増殖と支那人の移住あるが爲に人口は漸次に増加し拓地の業も多少捗れるが如し

緬甸部は上下緬甸掌部、東アサム、マニプア、リッヂニカシンより成りて八十萬方杆の地積と一千萬の人口を有するが共に印度帝國の管轄に屬す、此の地は舊と緬甸帝國と稱して一國を爲せしが次第にイギリス國の爲に侵略せられ遂に一千八百八十四年以來は全く同國の占領する所と成れり、緬甸はイラウアチ河とサルウエンの中部との流域に當り季候風の嚮らし來る多量の雨水を受くるが故に灌漑の利は充分なり、地積は四十四萬方杆にして人口は七百六十萬に達せり、住民の多數は緬甸人即ちムラムマ人なるが骨格逞しうして又た氣力なきに非らず、言語は元來單音的なるも印度のバリ語の混同せしもの甚だ多し、是れ此の地方の地名人名にバルマ名とバリ名との二種ある所以なりとす、而して國人の多數は佛教を信奉せり、農業は稍盛にして多量の米を産す、牧業、漁業には多少見るべきものあるも工藝は極めて不振なり、ラングン

(三〇〇〇〇)はイラウアチ河の分流に瀕す、大船巨舶と雖自由に入出入するを得、此の地は大に米を輸出す、マシダレー(二〇〇〇〇〇)はイラウアチ河を隔つる一里の地にあり、舊國都たりし處なり、マウルメイン(五、五〇〇〇)はサルウェン河の河口に於ける商港なり

アンダマン列島は南北二百五十里に亘れる島嶼にして十三四萬の人口を有するがブレア港に流刑場の設けあり、内部の森林中に棲居せる黒色の土人アンダメーヌは小軀を有するを以て名あり、ニコバル列島はアンダマン列島の南にあり、舊マシダレー國に屬せしが其の後イギリス國の所有に歸せり、六千の褐色土人は此の地に居住セリ

マレー群島

マレー群島は一名を印度支那群島と云ふ、アシア洲の南東にありてヒリピナ群島、ボルネオ島、大ソング諸島等より成れり、赤道は其の中間

を貫きて極北はバタン諸島の北緯凡そ二十一度にして極南はソバ島の南緯凡そ九度なり、極西はスマトラ島の東經凡そ九十五度にありて極東はミンダナオ島の東經凡そ百二十六度にあり

境域 北東に太平洋を控へ南西は印度洋に臨み、スールー海、セレベス海、マカッサル海峡、ソバール海、ロンボク海峡を挟みてオセアニア洲のセレベス島、小ソング諸島等と境を接し、西は南支那海を隔て、遙に大陸と相對するもスマトラ島とマレー半島との間には僅に狹長なるマラッカ海峡の存するのみ

面積 ヒリピナ群島の三十萬方杆、ボルネオ島の七十四萬方杆、ソバール、マツラ二島の十三萬餘方杆、スマトラ島の四十七萬方杆、其の他の島嶼の方杆の數を合すれば凡そ百七十五萬方杆を得るなり

海岸 内海に面する海岸は概して平低なるも印度洋又は太平洋に

瀕するものは斷崖絶壁に富めり而して本群島に屬する島嶼には珊瑚性岩礁を以て圍繞せらるるもの多く又海岸線の屈曲は各島均一ならず、ホルチオ島は土塊的狀貌を呈するを以て極めて彎曲に乏しきもヒリピナ群島の各島には何れも多少の屈折を観る要するにマレー群島の海岸線の延長屈曲は比較的に他の島嶼に優れるものあるが如し

山誌 山脈の趨勢は極めて錯綜し數多の山系は縦横に走行せり高山は各島に於て之を観るも最高點はホルチオ島のキニバル山にして直立は四千一百七十米突に達せり特に顯著なる二條の火山脈あり其の一は大ソング列島を貫通して激烈なる活火山を噴起し小ソング列島の方に趣けり其の二はモリウ諸島より起りセレベス島の北端を経てヒリピナ群島に入り數多の活火山を噴出し北の方臺灣島に達せり

水誌 本群島は太平洋と印度洋との間に散布せるものなるが、多く

の内海を抱きて其の主要なるものを列擧するも六七を得るならん然れども海深は一樣ならずしてアソアの海底臺地は一千軒の海峽を隔て、オセアニアの海底臺地と相對せり是アソア、オセアニア、二大洲の境界なり又河流の多くは溪流細水に過ぎざれども中には稍著しきものなきにしもあらず

氣候 熱帶に於ける島嶼なれば氣温は常に二十六度前後を保ち最高と最低との差は僅に二度あるに過ぎず本群島は印度洋と太平洋との間にあるが故に貿易風と季候風との衝突ありて屢大風を惹起すことあり雨量の平均は二米突前後なるも土地の高低に依りては著しき差異あり平地に於けるパタピアの雨量は二米突なれども三百米突の高處にあるピニテンツォルグに於ては四米突以上に達せり

天産 氣候の炎熱なると降雨の饒多なるとは大に植物の繁茂を促

し森林は各島に蒼蔚として殆ど全地を蔽ひ特に各種の香料等を興ふ而して少しく人力を費せば佳良の珈琲、砂糖、蘇、煙草等を得べし又動物は爬蟲、昆蟲の類に富めるも珍禽奇獸は多からず概して印度支那に於て觀る所のものに似たり

◎ エスバニア領

本領地はマレー群島中の北東に位せるものなるが數多の嶋嶼より成りて北と南にルソンとミンダナオとの二大島あり其の間にはピサヤス諸島ありてマヌバット、サマル、レイト、パチイ、チグロス、セビヤ、ボホ、等を包括せりルソン島の北にバビアナ諸島、バタス諸島あり、バミールの海峡を隔て、我が臺灣島と相對せり其の南西にはミンドロ嶋、カレミヤス諸島、バラウアン島あり、ミンダナオ島の南西にはスールー列島あり其の他の小嶋に至りては實に枚舉するに遑あらず面積は凡そ三十萬方

にして人口は凡そ七百萬なりとす而してルソン島の中部にタガル種族(二百萬)あり其の北部にチグリート種族あり其の他は概してピサヤス種族(三百五十萬)に屬せり言語の一樣ならざるは勿論なれどもエスバニア語は領主たるエスバニア人の語なれば法語たるの實あり而して土語の中にて大に行はるるものは南部に於けるピサヤス語と中部に於けるタガル語なりとす宗教は天主教を奉ずるものもあれども回教徒も亦少なからず

ルソン(呂宋)島は十萬方疇の大島なるが北部は南北に亘りて稍廣くマニラ灣、ベイ湖より以南のカマリス半島、アルベイ半島は東西に走り、狹長にして極めて彎曲に富めり火山脈は全島を貫きてボンボン湖中のタアル山と成り又マロニシエ山(三三三三)、イサログ山(一九六六)、新火山、イリガ、マ、イオン山(三三七四)、バリザン山等を噴起せり河流の多くは沿岸の細流たる

に過ぎざれどもカヤガン河は稍著し、北部の中央に發源してアハリ附
 近に於て海に入る土地はコラス季の雨水とソルタマス季の温熱とを
 受くるが故に甚豊なり、烟草、サカヤ(俗にマニ)、香蕉、砂糖等を産し頗る農業に
 適せり、又内部の山地には綠樹蒼蔚として森林を爲せり、本島の住民は
 四百萬人なるが、マガル人二百萬は中部に居り、チグリス人は北に居
 り南部のカマリヌ半島、アベイ半島にはピサヤス人、七十五萬の住居す
 るあり、此の外サンブレイス即ち支那人は各地に居りて種々の業務を營
 めり、エスパニア人は其の數甚多からずして傳教の道には古來大に力
 を盡したるも拓地殖民の業には熱心なりと云ふを得ず、行政には總督
 をマニラ府に置き文武の權を兼ねて全群島を總轄せしめ、別に民政長
 官を置きて民刑の事を司らしめ、九州に民政官を置き、九軍府に軍政
 官を置き、地方の行政を司らしむ、兵備は凡そ一萬の陸兵と五隻の巡洋

艦十七隻の砲艦并に數隻の補助船とあり、貿易は二千四百万ペツの輸
 入と三千万ペツの輸出とにして、烟草を以て主要の輸出品とせり

マニラ府(一八、〇〇〇)はマニラ灣に瀕し、パシグ河に跨りて一の良港を
 有せり、其の一部は總督府を始めとし、兵營官衙の所在地にして胸壁を
 繞らし、軍備を嚴にせり、他の部はピノンドと稱す、市街の地にして支那
 人多く商業盛なり、又烟草製造を以て有名なり、此の地は震害を蒙むる
 とあるも亦全群島の首府たるに適せり而して本港と香港との間は快
 走の汽船なれば三日にて航行し得べし、而して本府の外、尙稍著しき都
 會はリバ(四三、〇〇〇)、バニヤング(三五、〇〇〇)、ラオアング(三〇、〇〇〇)なり

ミンダオ島は九萬五千方疋の大島なるが山岳多くして綠樹蒼蔚
 たり、巨大の爬虫、其の他種々の害虫ありて往々人を傷ふことあり、又沼
 池の畔に於ける濕地は健康に適せざるも土地は一般に豊饒なり、二十

餘萬の回教土民は小數の 에스パニヤ人を以て征服し得ざるが故に本島が 에스パニヤの所領なりと稱するも眞に有名無實なり、ザンボアンガは本島の首府なるも陸兵の駐屯所たるに過ぎず、ビュチニアンは有名な航海者 マガラエスが本群島を發見したるの際に始めて上陸を試みたるの地なり

ワロ即ちスールー列島は二萬五千方呎の地積を有す、山岳多く森林蒼蔚たり、人口は凡七萬五千人なるも多くはヂイムバ土人にして小數の回教マレー人之を使役せり、

◎オランダ領

マレー群島中に於けるオランダ領地は大ソンド列島とボルネオ島の一部とより成れり、其の大ソンド列島はスマトラ、ジャバの二大島とバリ、嶋等を中央に置きリンゲン、パンカ、ピリトン、マツラ等の島嶼

は北岸に沿ひ、パピオアス、メンタウエイ等の島嶼は南岸に沿へり、面積は凡二百二十五萬方呎にして人口は凡二千九百萬なり、而してオセアニア洲に屬するものを加ふれば東印度殖民地の面積は百九十八萬方呎にして人口は三千三百十一萬と成るなり

東印度領地は擧げて總督の管理に屬し、ジャバ、マツラ等の二島を内領とし、其の他の島嶼を外領と云ふ、内領の各地に駐在官を置き、外領の各部に知事を置き、兵備は陸兵に凡四萬あるが其の過半は土人なりとす、東印度艦隊は十九隻二萬噸なり、財政に就きては歳入一億二千五百萬フロリンにして歳出一億三千九百萬フロリンなれば一千四百萬フロリンの不足なり、是れ毎歳見る所の事實なりとす、生業は農業を主とし、盛に珈琲、砂糖、煙草、藍葉、米穀等を産す、又鑛業はパンカ、ピリトンの二島に於て錫を採掘せり、其の他、天然林は各島にありて、木材、果物、香料、藤等

ざりしが一千八百十年には四百八十万と成り現今は二千四百六十四万の多きに達せり、而して住民の大多數はマレー人種に屬するジャバ人なるが他に二百五十萬の支那人と四十萬のオランダ人あり、言語には種々の土語あれども概してマレー語にして最普通なるをジャバ語とす而してマレー語とサンスクリット語との混淆より成れるカ非語は所謂死語にして平常の用を爲さざるも上流社會は此の語を知らざるを耻とせり、又オランダ語は法語として多年用ひ來りしも通用は甚狭隘なりと云ふ、パタピア(二一〇〇〇〇)は一小灣に瀕し運河に跨りて船舶碇繋の便は多少備はれども良港なりと云ふを得ず、市街はホルトガル人の創設に係りオランダ人が此地を以て首府と爲せし以來一時は盛を極めしが現今は稍衰微の色を顯せり、オランダ人にして此の地に住居する者の如きは甚少なし、エルテベルヂンは本府の附近にありてナリチ

ン河に沿ふ健康地にして温帯人の住居に適せり、ブイタンツォルグは内部の山間にあるが東印度總督の居住地なり、サマラン(七〇〇〇〇)は北岸にあり、スラバヤ(二五〇〇〇〇)はマツラ島と相對するの地にありて商港たり、ジャバカルタ(四五〇〇〇)は南岸にあり、

バリ島はジャバ島の東にあり、地積は六千二百方疇あり、人口は八十萬餘あり、グノンツァゴン山(三二〇〇)の麓に地味肥沃にして灌漑の利を有する好地耕あり、本島とロンボク島との間に於ける海峡は水底深く海流急にしてアツア、オセアニア二大洲の境界とするに適せり

スマトラ島は北西より起りて南東に走り四十七萬方疇を有する大島なるガ海峡を挟みてマレー半島と相對し北東は遙に支那海を望み東はジャバ海に瀕し南西は印度洋を控へたり、急峻なる山脈は西岸に屹立して全島を貫き、其のグノンクの中にて六七は噴火山なり、赤道直

下に於けるシンガラ山は三千米突以上に達しインドラ山は三千七百米突を有す、河流は饒多なるも概細流にして稍著しきものをムシ河とし、沼湖はマノ、シンカラの二湖を推す、氣候は酷熱を感じ雨量は極めて多くして地味は甚だ豊なり、天産は特に植物に富めるがオランウタン、大鱉は此の此の名物なり、人口は凡そ三百萬あれども數多の種族に屬せり、其の回教マレー人は最も多くして海岸并に河畔に居り、バタス種族はトバの高原に住し、賤劣なるオラングプーはマレー人の爲に奴隷視せらるゝものなるが多くは森林中に架居せり、パレムバン(七、〇〇〇)はムシ河の下流に瀕する商業地にして本島第一の都會なり、住人はマレー人、支那人、アラビア人にしてオランダ人は甚だ少なし、此の外、アチン、バダング、バンクレーン等は稍名を知らる

バンカ島は一萬三千方杆の地積を有し六萬の人口を有せり、内部の

山地は錫を産す、ムントクを以て本島の首府とす

クラカトア島はソンド海峽に於ける小嶼の中の一なるが明治十三年(西暦千八百八十三年)に火山の破裂ありて今は僅に原形の三分の一を存す

ボルネオ即ちブルチイ島は世界第二の大島にして、七十三萬方杆の面積を有し赤道の南北に亘れり、本島はツバハ島を距ると甚だ遠からざるに拘らず、内部は暗黒不明の箇處多くして稍交通の開けたるは沿海の地なりとす、されば山脈の趨勢、河川の流域の如きは充分の探見を経ざるを以て確言するを得ざれども、要するに附近の島嶼と異なりて本島中には一の火山なく、大陸的地貌を有せり、著名の山脈を千百山脈と云ひ最高峯をキニバルと云ふ、直立四千一百七十五米突に達して島の北端にあり、河流は少なからざるが其の主要なるものをマハカンパリトカプアスとす、内部には森林多く又蘆原、藤原等も少なからず

本島に住居するマレー人に二種あり、其の一をダヤクと云ひ、其の二を回教マレー人と云ふ、此の回教人は本島の主人にしてダヤクを奴隸視し之れをして農業、其の他各種の力役に従事せしむ、黒色のアルホラスは内部の僻地に散住せり、支那人は其の數三十萬以内なるべきも砂金を採集するあり、農業を務むるありて其の増殖發達は前途甚だ望みあり、言語は種々なる土言の混淆を受けたるも大體はマレー語なり、オランダ語、イギリス語は共に其の通用甚だ少なし

本島の東部、南部、西部はオランダに屬し、凡そ五十五萬方呎の地積を有し、凡そ百三十萬の人口を有せり、市街には東南州にバンジョルマッシン、サマリンダあり、西州にボンチャナックあり

◎イギリス領

本領は北ボルネオ殖民地と、ブルチイ、サラワクの二保護地とより成

りてボルネオ島の北より、北西に亘れり、地積は二十萬方呎にして人口は凡そ五十萬なりとす、ラファン島はボルネオ島の南西岸に沿ふ一小島なり、地積は七十八方呎に過ぎずして人口も亦六千に達せず

◎印度

其一 印度半島

境域 印度半島はアツアの南に於ける一大半島にして、ヒンヂヤ山脈は之を二部に分てり、其の北部は平低の地にして、ヒンヅースタンと稱し、南部は臺地多くして、デカンと名づく、長さは三千五百二十呎にして、濶さは二千八百十二呎なり而して面積は三百八十万方呎あり

印度半島の極南はコモリン岬の北緯凡そ八度に於て、極北はコンロン山脈の北端の北緯凡そ三十七度なり、西はシンドの西端に於ける東經六十二度三十分より起り、東はアッサムの東端の東經九十二度に達せり

北は西コンロン山脈、カラコルン山脈、ヒマラヤ山脈を載きてチベット高原に接し、東はブラマプロタ河を挟みて印度支那に境し、南東はベンガル海、印度洋に臨み、南西にはオマン海を控へ、西は印度河を隔て、イラン高原に隣せり

海部 本地は印度洋に突出せる半島なるを以て海灣は悉く印度洋に屬せり、然れども其の數は至りて少なしとす、東にベンガル海あり、パルク海峡に依りて南方のマナル灣に通じ、西にあるをオマン海とカンベイ、カッチの二灣とす

陸部 半島としてはグリーンフェットとカッチとを著しとし、地角としてはカリメーヤ、コモリンを掲ぐべきものとす、島嶼にはベンカル灣底にシリカズプリア、其の他の小嶼あり、南西の外洋にマルヂブ、ラカヂブの二列島あり、西部の海岸にサルセット嶼あり

海岸 沿海の地は其の形状極めて單純にして彎曲に乏しく概々平低なりとす、海岸線の延長は一万裡に達するも僅に西岸に於て二三の良港を有するのみ

山誌 チバル國に屬するヒマラヤ山脈中には山岳の王と稱すべきガウリザンカル山あり、其の直立は八千八百四十米突に達し、その他、カシヤンガ(八四七八)、シースル(八四七五)、ダワラギリ(八一八〇)等の六峯は八千米突以上の高さをも有せり、カシミアの後ヒマラヤ山脈はチアルミル(八一三)山を有し、カラコルン山脈中には山岳中の副王とも云ふべきダプサン山(八六一五)あり、而して此等の高嶺は海拔五千米突以上の臺地にあるものなるがカラコルン山脈のラキボン山は直立七千七百九十一米突なるも基底は一千五百米突に過ぎざれば六千餘米突の絶崖を以てギルギット谷地の中に屹立せり、實に比較的地球上の最高峰たり、アッサ

山脈は三千米突以上の高岳を包含し、ピンヂヤ山脈にありては一千五百米突乃至五百米突以下に低下し、アラハリ山脈のアプー山(二七三三)は稍名を知られ、サトプラ山脈は一千三百六十米突以下なり、オリッサの最高點マラヤギリ山は一千一百八十七米突に過ぎず、ガット山脈は南走して愈、高く、ドダベッタ山(二六七〇)の如き秀嶺を有す、又アナマレ山のアナムナ山は二千六百九十七米突に達せり

水誌 本半島を二斜面に大別すれば其のベンガル海斜面に屬する河流はブラマプロトラ、ガンヨス、マハナヂ、ゴダベリ、クリシナ、カベリにしてオマン海斜面にあるものはインヂュス、ロニ、マヒ、ナルバダ、ダプナなり
ブラマプロトラ河は印度三大河流の一なり、源をガンリ山脈の北面に發す、上流をヤルザンボと稱し東流してヒマラヤ山脈を迂回し南西流してアッサム地方を貫き南流してベンガル灣に注ぐ、源委通じて二千五

百三十三科を有す、本河は數多の支流を集め百五十萬方秤の流域を有し多量の水を輸送し來るも寒冷の地、人口稀薄の土を潤すに過ぎざれば其の効用甚著しからず

ガンヨス河は源をイヒガミンの麓、直立七千七百八十一米突の高處に發す、二派あり、其の一をアラクナンダと云ひ、其の二をハギラナと云ふ、ガンゴトリ聖地(四〇〇〇)の附近に於て相會し奔流又奔流して寒地を去り暖地に赴き、山地を離れ低地のハルドワルに到れば海拔は僅に三百一十米突に過ぎず、流勢漸、緩緩と成り、トアブの平野を潤して水量を減ずるも、アラハバドの近傍に於て巨大なる支流ヂャムナを容るゝを以て幾多の疏水を分派するに拘らず、愈増大して沿岸の地をして天下無双の良耕地たらしむ、ベナレスを経たる後、支流ガクラより多量の水を受け、ベンガル地方に入り數多の派流に分れ、ブラマプロトラ河と共に廣

大なる三角洲を爲してベンガル灣に注ぐ、特に未流の一派たるフーヅリは通船の便甚だ多し、本河は源委通じて二千七百餘軒の長を有し、流域は九十三万軒に過ぎざるも其の効用たるや絶大にして實に世界第一の流水と稱すべし

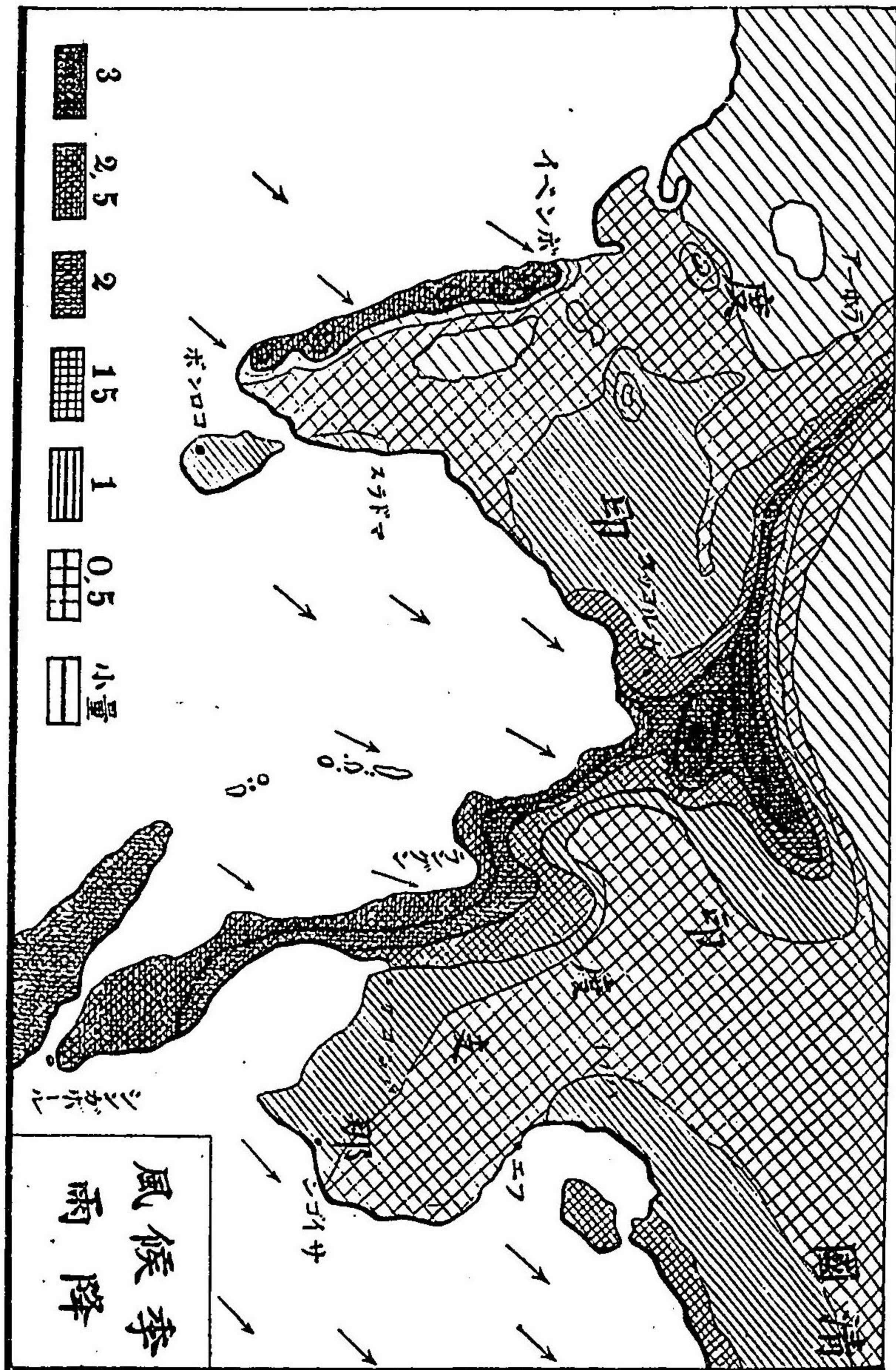
インヂャス河即ちシンド河は印度三大河の一にして水源をチベット高原に於ける海拔六千七百餘米突の地に發し、上流八百軒はシンガパー河と稱す、カラコロン山脈より出づるシューク河を合せてインヂャス河と成る、上流に於ては急激なる傾斜を有するもアトックに於てアフガニスタンより來るカブール河を受くる頃には海拔三百米突前後の地を流る而してサトレヨ、ベアス、ラビ、チナブ、ヂヒラム(古名をヒダス、アミ云ふ)の合流より成れるパンヨ河(五河なり)を受けて水量を増し左にスワールの沙漠を控へインド・イラン山脈の麓に沿ひて流る、下流に於ては十一派に分

れて八千方軒の三角洲を抱きてオマン灣に注ぐ、本河は三千軒の長を有し、百十千方軒の流域を有するも効用は遙にガンジス河の下にあり、支流中の一なるサトレヨ河は本流に比すべき巨流なるがヒマラヤ山脈中のマンサラウル、ラクスマルの二湖より出でて峡谷の間を奔流し平原に來りてインヂャス河に入る

デカン半島に於ける河流に就きて主要なるものを舉げんにマハナガ河はマイカル山脈に發源し流域の十萬方軒以下なるに拘らず多量の水を輸送してベンガル灣に入るゴダベリ河(一四五〇軒)はデカン第一の長流なるが三十萬方軒の農産地を潤し三角洲を爲してベンガル海に注ぐ、クリシュナ河(一三〇〇軒)は二十四萬方軒の流域に灌溉の利を興へてコロマンデル海岸に於て海に入る、カベリ河(七六〇軒)は流域の小なるに拘らずマイソラ高原を出づるに際し百米突の瀑布を爲すを以て有名なり、ナルパタ河(二二〇軒)は印度人の崇拜して聖河と爲すものなり

沼湖には著大なるもの更になし、稍著しきものはラジフタナのサムバル湖
カシミアの山間に於ける小湖並に東海岸のチルカ、バリカットの二湖とす

氣候 ヒマラヤ山脈中に於ける谷地にありては温度は季節海拔緯
度に依りて變化し、日光を受くるの度に從ひて著しく昇降するも其の
他の地にありては温度の高低は南北に依ること少なくして東より西
に趣くに從ひて差異を生ずるが如し、一月と七月との平均温度の差は
半島の南端にありては四度に過ぎずして、マドラスの六度五分、ポムベ
イの六度二分、カルコッタの十度九分なるがカルコッタより西方に向ひて
行けばベナレスの十八度五分、ラホール二十二度三分なり而して極
寒極暑にマドラスの十七度及び四十二度にしてパンジャの零度と五十度
なり、南西の季候風並に南東又は南の定風は六月より九月までにして
北東の定風は乾風なり、雨量はアツサム、ベンガル、マラバル地方に多く



特にベンガルのナニラフンツにありては十二米突に達せり、ガンジスの中流並にオリッサ地方は二米突前後にして其の他の地は一米突以下なり、特にラジプタナ地方にありては雨量は甚だ少くして一粉以下なりとす、季候風の方向を變ずるに際しては旋風と云ひ颶風と稱する暴風の起ることあり、沿海の地は海嘯の害を被り、河水は汎濫して田野を荒し家屋を破壊し人命を傷ふ、其の損害は甚だ大なりとす、且又日光の激烈なる、土地の濕氣をして放散せしむること極めて速なれば降雨の少なきときは忽ち乾魃と成りて毫末の收穫だも見ることも能はず、斯る場合には世は饑饉に苦しめられ惡疫流行し幾多の人命を傷ふ、其の悲惨の情態は此の地に世界無比の良土たりとの佳評なるを疑はしむ

天産。季候温暖にして土地は極めて豊饒あれば植物の蕃茂、動物の繁殖は實に豫想の外に出づ、爬蟲には陸蛇、水蛇、コブラカペロあり、猫類

の主要なるものを虎豹とす巨大の爬虫と共に人命に危害を被らしむること少なからず、鳥類は鷹族、鷄、鵝族に富み野生の孔雀あり、又家畜には牛、馬、駱駝、羊、象等あり、綠樹は蕪、鬱として各地に森林を爲し竹、籐は各處に茂生して廣大の土地を蔽ふ樹木の中にはココア、コリファ、榕樹、テック、黒檀あり、果樹には芭蕉、アナナ、柑、葡萄あり、其の他、米、麥、蜀黍、木綿、蔗、黃蔗、煙草、藍草、鴉片あり、鑛物には金、鐵、亞鉛、銀、鉛、石炭等あれども世には寶石に富めりと稱せらる

人口。印度半島に居住する人類の總數は凡そ一億六千萬人なるが幾許の種族より成れるかは明瞭ならず、今茲に主要なるもののみを擧げんに、黒種にダシウス、ムレチヤスの二種族あり共に最舊の土民にして現時は其の數至りて少なくしてデカン半島の深山幽谷の地に棲居せり、黃種には二派あり、其の一はチベットより來れるものなるべし名づけて

ドラビヂヤン種族と云ひ分れてタミール、マラハール、テレニガス、ツルバス、カルナットと成り共にデカンに居住せり、其の二はツラン地方より移住したるものなるが名づけてチャール種族と云ふ、インド河とピンデヒヤ山脈との間に居る、此の外、回教徒中にも此の種に屬するもの少なからず、白種に屬する種族にて最、舊きものをアリヤスとす、アリヤン人はカプール地方より來侵して先住者たる劣等の民族を征服したり、然れど其の數の多からざる他の種族と混同して遂に純種は消滅せり、近世に至りホルトガル人、オランダ人、フランス人、イギリス人は南方より渡航し來りて政權を掌握するに至れり

宗教。宗派は至りて錯雜にして悉く列擧し難きを以て最、著しきもののみを掲げんに、バラモン教は信徒甚だ多くして、一億九千萬を超過す、佛敎は勢力微弱にして信奉するもの僅に二十萬に過ぎず、回教徒は稍、

多くして五千萬に達せり、基督信者は主としてヨーロッパ人若しくは雜種人なるが總數は二百萬餘なり、其の他に百二十萬のチャイナス信者あり、二百萬のシクーあり、八十五萬のバリヲスあり、六百五十萬の拜物者あり、殘餘は宗派不明なりとす。

言語 平野印度に行はるゝ各種の言語の中にて最、通用の廣きものはウルヅー語にして蒙古、ヘルシアアラビアの三語と土語との混成なるが八十有餘の土音に分れて一億人の使用する所なり、ヒンヤ語は主として農夫の用に供せらる、其の他にベンガリ、グザラット、マラーット等の土音あり、デカン半島にありてはデレンガ語(二四〇〇)タムール語(二〇〇〇)、カナレーヌ語(五〇〇)、アラヤラム語(三〇〇)、ツールー語(五〇)等を以て稍、著しきものとす而してイギリス語は政事上若しくは上流社會に用ひらる風俗 人情風俗の土地に依りて差異あるは勿論なれども印度の住

民中に於ける社交的階級は實に顯著なりとす、社交上最高級を占むるものをブラマヌ即ちバラモン教の僧侶とす、之に次ぐものはクシアルトリヤス即ち軍人にしてアリヤン、シャー、ラオプト等の各種族に屬せり、中位にあるをバイシヤス即ち平民にしてツラヌ種族に屬し地主又は商賈たり、其の下にあるをスードラ即ち役夫とす、黒種若しくは黒色と黄色との雜種にして概々勞力を以て世を渡り上流人の爲に使役せらる、最下級に居るものをバリヤス即ち奴隸とす、而して此等の階級に就きて僧族、軍族を貴族としスードラ、バリヤスを卑族とす、バイシヤスの如きは中間にありて平族なり

◎獨立國

宏大なる印度半島に於て稍、獨立の體を備ふるものは僅にチポール、プーランの二小國あるのみ而して此の二國は共にヒマラヤ山脈の南

の斜面にあり

チポール國は中央ヒマラヤ山脈に據る、狹長にして十四五萬方呎の面積を有す、山脈の斜面にあるを以て領土の廣大ならざるに拘らず、氣候は各處一樣ならず、低地は炎熱に失し、高地は寒烈に苦む、テライは温和にして頗る健康に適せり、従ひて動植物も各帶固有の種類を集めしが如き奇觀を呈せり、人口は三百萬人と稱するがハラモン教のヒンヅー人あり、シアカムニ教のチベット人あり、言語はウルヅー語を主とすれども、ハルパツ、ネウアリ等の土語を用ふるもの少なからず、首府はカトマンヅー(七〇〇〇〇)にして海拔一千三百二十七米突の地にあり

ブータン國は東ヒマラヤ山脈に據りて四萬方呎の地積を有す、人口は十萬なるが蒙古種一派にして多少、印度的感化を受けたるものなり、首府はタシメードンにして海拔五百三十米突の地にあり

◎イギリス領

印度半島は前記の小獨立國並に其の他の小部分を除くの外、悉く大ブリテン、アイアランド聯合王國の主權の下にありて、印度帝國の主要部を爲せり、同國政府は此の土に總督を置き文武の權を委ねて帝國を管理せしむ、總督會議は輔佐の任に當り、行政部は財務、商務、内務、稅務、農務、外務、工務、法務の各局より或りて政務を整理せり、其の他、會計、檢査、郵便、電信、鐵道、森林、療病等を司る各種の官衙あり、別に高等法衙を本國のロンドンに置きて最終の裁斷を與ふ、而して監督、副監督、駐在官、管理官等を各地に置きて地方の行政を司らしむ

本領地には直轄地と保護地との二種あり、其の直轄地は三管區、二百五十有餘の小區より成るも其の廣袤、人口等には甚しき差異あり、其の保護地には凡そ六百の小邦ありて均しく總督の管理に屬せり、直轄地の

ベンガル管區は三管區中の最大なるものにして本領地の北部、東岸并に中央の一部より成り、分れてベンガル州、西北州(アウヅ)、低地州、中央州と成る。印度支那のアッサム、バルマ等も此の區に屬せり。マドラス管區は南部と東岸の一部とより成り、ボンベイ管區は北西沿海の地より成れり。保護地にパンジャ、北西、低地、中央の各州并にマドラス、ボンベイの二管區の兼轄に屬するものあれども亦カシミヤ、アヨミル、中央印度、ベラル、ニザム、マイソール等の如く總督に直隸するものあり。

兵備は土地の廣大なるに比しては甚だ微弱なるが如きも是れ主として印度人の制御し易きに因らずんばあらず、陸兵は二十二萬にして其の内、土兵は五萬余なり、分ちて四軍となし各地の要處に駐屯せり、兵艦は十六隻ありて噸數は凡そ二萬なり、財政は歳入に九億五十六萬ルーピーありて歳出に九億二千百十二萬ルーピーあり。

生業の情態を記さんに農業は實綿、米、麥、鴉片、芝蔴、藍葉、茶、烟草、珈琲等を産して主なる生産力なり、牧業は牛、馬、驢、羊、駱駝、象を飼養す、鑛業は五十四ヶ處の鑛坑ありて百二十萬噸の石炭を産出せり、工藝は熟皮、毛布、カシミヤ、毛被、敷物、飾具、飾器、土器、彫器を製出す、其の他、製紙、製絲、紡績、ビール釀造等の漸次に隆盛に趣くあり而して貿易の高は凡そ二十億ルーピーなるが輸出の輸入に對する割合は十一と九とのにして輸入品の主要なるものは綿布(三、九二六九万)、鐵鋼器(四、二七四)、鐵道用材(三、八〇〇)、石油(三、二七六)、綿絲(三、一〇九)、砂糖(二、八二四)、毛織物(二、八九二)、絹織物(二、八二八)、銅器(一、五三三)、衣服(一、四三五)、生絲(一、三六〇)等にして輸出品の重なるものは實綿(一、三二九七)、米(一、〇三八九)、黃蔴(八、五二四)、鴉片(八、〇一九)、蔴實(七、五〇九)、茶(六、五八六)、穀類(六、三三三)、綿絲(四、九七四)、皮類(四、八〇二)、菜實(四、七三五)、藍葉(四、一八二)、黃蔴製品(三、四四二)、珈琲(二、〇〇二)、芝蔴(一、九三〇)、綿布(一、三三八)、毛織物(一、〇八〇)等なりとす、且又此等の品種に就きて百分比例を作れば

輸出入品	品		
	輸出入	食料	原料
輸出品	七、八	九、六	八二、六
輸出品	三、七、七	五、一、七	一〇、九

交通 鐵道は二萬九千七百七十七軒にして其の内官設は二萬二千二百十六軒、私設は四千八百十二軒、保護線は二千六百四十九軒なり、郵便は八千九百七十八局を設けて百五十五萬七千五百九十七ルーピーを收入し、千五十五萬八千二百八十一ルーピーを支出せり、電信には一千二百二十四局ありて線長は空架六萬八千七百十八軒、海底四百十一軒なり、而して收入は九百九十五萬九千六百九十六ルーピーにして支出は八百九十萬二千一百三十三ルーピーなり

處誌 本領土の町村の總數は七十万以上に達し其の内十萬以上の人口を有する都會は二十六處あり、カルコッタはベンガル管區の首府たり

ると同時に印度帝國の首都たり、カンジス河の一派なるフリーグりに跨れる一大都會にして八十餘萬の人口を有せり、然れどもエロッパ人は一萬餘に過ぎずしてウラツア人は二萬に達せず、其の他は凡て土人なりとす、本府の白街には宮殿官衙多く頗る美觀を呈するも黒街は土人の居住地なるを以て見るに足るものなし、土地平低にして濕潤に失し飲料水に乏しく至りて不健康なり、特に夏季にありては惡疫流行するの恐あるを以て行政政府を始めとして高官富豪は悉くヒマラヤ山地のシムラに避遁するを常とせり、ハオラー(二二〇〇〇〇)は商業地なり、パトナ(一六〇〇〇〇)はカンジス河の畔にありて交通上の要處たり、ベナレス(二二〇〇〇〇)はバラモン教徒の聖地にして數多の寺院あり、僧侶の居住するもの極めて夥し、アラハバット(二七〇〇〇〇)はカンジス、ヂムナ二流の相會する地に近く交通上の要處に當りて盛大なる都と成るべき望みなり、カンボウ

(二八、〇〇〇)は一千八百五十五年に士兵の憤起し始めて兵を擧げたる地なり、ラクナウ(二七、〇〇〇)はガンヨス河の支流ガナ河の畔にあり、市街は宮殿、洋屋等ありて稍、美觀を呈するも又土製の小屋多數にして印度市街の特徴を顯せり、バレイリー(二二、〇〇〇)は舊、繁華の地なりしが當今は稍、衰微せり、アグラ(二七、〇〇〇)は往昔大アッハの世にありて盛を極めしが現時は僅に城郭、宮殿、寺院等を保有するに過ぎず、デリー(二〇、〇〇〇)は往昔回教王國の都たりし處にして今に繁華の地なり、ラホル(二八、〇〇〇)はパンジャール州の首府なり、アムリツル(二四、〇〇〇)はパンジャールにあり、シク人の都にして樞要の地となす、スリナガル(二二、〇〇〇)はカシミアにあり、氣候溫和にして風景に富めり、往古回教王國の夏季の殿宇のありし地なり、アーマダバット(二五、〇〇〇)并にバロダ(二二、〇〇〇)はカンベイ灣を距ること遠からず、交通上の要區たり、チャイプアー(二六、〇〇〇)はラジャプタナ

國の首府にして堅城を有せり、スラト(二二、〇〇〇)は往時に於て盛大なりし處なるが今日は甚、衰へ商業の如きも更に振はざるが如し、ボンベイはボンベイ管區の首府にして人口の饒多なる、商業の繁榮なる實に印度第一の都會なり、住人は八十二萬餘ありて其の内エウロッパ人は一萬餘なり、特にホルトガル人の子孫を多しとす、貿易港としては盛に實綿、米、鴉片等を輸出せり、此の地には本邦の領事館あるも本邦人にして居住、往來するものは甚、多からず、此の地の近傍にサルセツト、エレハンタの二嶼あり、地下寺院を以て有名なり、プナ(二六、〇〇〇)は海拔五百六十三米、突の地にあるを以て氣候佳良なればボンベイ管區の夏季の首府たり、マドラス(四五、〇〇〇)はマドラス管區の首府にして美麗なる白街と龜造なる黒街とに分かる、而して一萬五千の白人は此の地に居住せり、氣候の炎熱なると港灣の不良なるとを以て名あり、バンガロウ(二八、〇〇〇)は

海拔九百米突の地にあり、天氣常に快朗にして頗る人生に適せり、ハイデ
ラバット(四二〇〇〇)はデカンの最大都會なり、近傍にゴルコンドあり金剛
石を産せしを以て名を知らる

◎ホルトガル領

ホルトガル人は他のエロッパ人に先だちて本半島に來り各地に於
て殖民事業を企て一時は盛を極めしが其の後次第に衰へて今は僅に
ゴア、ダミッポ、ヂューを保有するに過ぎず、面積は三千六百方呎にして人
口は五十二萬なり、ホルトガル政府はゴアに總督を置き其の他に知事
を置きて管理の任に當らしむ、ピラノバデゴア(二五〇〇)はボンベイの南
に於ける沿海の地にあり、ゴアの舊市街は盛時にありては二十餘萬の
人口を有せしが今は椰子の樹陰に跡を止むるに過ぎず、

◎フランス領

フランス人はホルトガル人、オランダ人に次ぎて此の地に來り十八
世紀の前半にありては其の勢力偉大なりしが一千七百六十三年以來
は頗る衰へ目下は遺跡を見るのみ、されば現時の領地はシアンデルナゴ
ル、カリカル、マヘ、ボンヂシユリ、ヤナオンの五處より成るも面積は僅に五
百九方呎に過ぎずして人口は凡そ二十八萬なり、ボンヂシユリ(一七、〇〇〇)は
本領地の首府なり

其二 セイラン島

セイラン島はインド半島の南に於ける一大島なるが面積は凡そ六萬
四千方呎なり、パルク海峡、マナアル灣は共に水淺くして岩礁沙洲はラ
マ橋を爲せり、海岸線は單純にして良港に乏し、山岳は少なからざるが
高峯はペドロタラガラ(二五二四)とアダム(三二六三)を以て最顯著なるも
のどり而して河流は饒多ならざるにあらざれども巨大なるものを見

す唯一のマハベクガンを以て稍著しとす、氣候は低地にありては酷熱に苦むも海拔一千乃至一千五百米突の地にありては温暖適度の季節多くして恰、長春にあるが如し、天産はインド半島とは異なりて椰子、茶葉、肉桂等を産す、要するに本島はインド半島に接近せるに拘らず之に似たる所少なくして反りて遠隔の地たるマダカスカル島に類するの點甚多しとす、本島に居住せる人民は其の數三百十七萬あるが其中の多數はシンガル種族にして殘餘は概々ミル種族に屬せり、此の外多少の雜種人あり、且又中央の山地に徘徊せるベッタ人は蒙昧なる野蠻民なるが本島最舊の住人なるが如し、行政は本國殖民省の直轄に屬せり、首府コロムボに駐在する知事は行政會議、立法會議の補助に依りて全島の施政を司れり、生業は未だ充分の發達を見ざるも農業は盛にして珈琲、茶葉を産せり、貿易は輸入に七千二百万磅ありて輸出に七千四百

万磅あり、首府はコロムボ(二二〇〇〇〇)にしてセイラン第一の要港たり、ポイントドガール(五、二〇〇〇)は島の南岸に於ける港なるが船舶の出入少なからず、トリンクマレは良港なるも商業は振はず、カンザ(三、〇〇〇)は内部にあり舊シンガル人が都と認めし地なり

●パミール高原

本高原は世界の屋棟と稱する高地なるが清國、印度帝國、アフガニスタン、ロシア國等の間に介在せり、從來イギリスとロシアとの争地たりしが輓近の條約に依りて境界は畫定せられたるが如し

パミール高原の南、カプールの東、ヒンツークシヤ山脈の東に於ける五萬方杆の高地をカヒリストタンと云ひ其の東并に北東に於ける山地をマールヂスタンと云ふ、共にイギリス人が所領なりと稱する地なり

●イラン高原

イラン高原は二百五六十方呎の面積を有し、インド河の西、チグリス河の東に於ける一帯の高原地にして北はカスピ海并にコッペット、カラヒンツィシヤ等の山脈を控へ、南はオマン海、ペルシア灣に臨めり、而して沿海の地に屹立せるタリシヤ、エルブールス等の山脈は海洋より來れる濕氣を遮るを以て、内部にありては天氣常に快晴なるも乾燥甚だし、時に山嶺より吹き起る大風あるも、夏季には塵埃を飛散し、冬季は寒烈を増すに過ぎず、されば寂寥たる荒蕪の地に稀に村落の點在するを觀るのみ、特にデク、イクヒル即ち大鹹沙漠は乾燥を極むる砂礫の地なれば一の生物だも生存する能はず、然れどもクルヂスタン山脈の西、エルブールス山脈の北に於ては水量に不足なきを以て米田、麥畑、華園、牧場等の存するあり、内部に數條の山脈あるも顯著なるもの少なく、平地の海拔は六百五十乃至三千米突にして平均は一千二百米突なり、島嶼はペ

ルシア灣にあり、就中、キシム島最著し

◎ パルシスタン

パルシスタン或はアラフイスタンは北、アフガニスタんに境し、東、イギリス領インドに接し、南オマン海に瀕し、西、ペルシアに隣せり、面積は二十七萬五千方呎にして人口は五百萬なりと云ふ、土地は概、磽确にして産物に乏しきも貿易は稍著し、カン即ち君主の歳入は三十萬内外に過ぎざるも一千八百七十六年の條約に依りてイギリス政府より毎歳十萬ルーピーを受く、而してカンは之が報酬としてイギリス人に特別な保護を與へざるべからざるのみならず如何なる國とも直接の關係を有する能はず、されば此の地はイギリスの保護國の如くにして現にイギリス政府はホラン峠の要隘の地たるクッターには一隊の兵士を駐屯せしむ、クッター(二四〇〇〇)はカンの居住地にして此の國の首府たり

◎アフガニスタン

アフガニスタンは東インド帝國に隣し、南バルシスタンに接し、西ペルシアに境せり、北はヒンヅークシヤ以北、ダリア河畔の地よりヘリルードに到る線を以て境界とせり、面積は五十五萬方秆にして人口は五百萬なるが國土は概して山地に屬し平均海拔は一千二百米突に達せり、然れども此處彼處に肥沃の地ありて耕耘に適し毎歲二回の收穫あるを常とす、米、麥、黍、等の産ありて近隣の諸國に輸出するの餘裕あり、貿易はカブール、カンダハルと印度との間に行はるゝのみならず、又ボハラに對する輸出入も稍著しとす、國體は君主專治にして領主をエミールと稱す、然れども其の實はイギリスの屬地の如くにして交通上樞要の地はイギリス人の占居に係れり、兵備は五萬の士卒と百二十餘門の巨砲を有せり、道路は概して險惡なるもペイシヤ、エル、カブール間は容易に

車馬を通ずるを得、而して貨物の運搬には駱駝を用ふるを常とす、首府はカブール(七、五〇〇〇)にして海拔一千九百米突の地にあるが交通上の要區たり、カンダハル(五、〇〇〇)は一千餘米突の地にありてヒルメンドの支流アルカンドアに瀕せり、ヘラット(五、〇〇〇)は海拔八百餘米突の地にありてインドとロシアとの間に於ける交通上の要區なりとす、バルクは往古のバクトルなるが、コンヅーズの地にありて西アシアの最舊の市街なりと稱す

◎ペルシア

ペルシア或はイランは北にアレクス河、カスピ海、カラクン沙漠を隔て、ロシアに境し、東はアフガニスタンに接し、南はオマン海、ホルムス海峽、ペルシア灣に臨み、西はトルコに隣せり、長さは二千二百餘秆にして濶さは一千四百秆なるが面積は百六十万方秆あり、カスピ海の沿岸